

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号
特許第5381143号
(P5381143)

(45) 発行日 平成26年1月8日 (2014.1.8)

(24) 登録日 平成25年10月11日 (2013.10.11)

(51) Int.Cl.
A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I
A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

請求項の数 1 (全 35 頁)

(21) 出願番号	特願2009-31045 (P2009-31045)	(73) 特許権者	000144522
(22) 出願日	平成21年2月13日 (2009.2.13)		株式会社三洋物産
(65) 公開番号	特開2010-184065 (P2010-184065A)		愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号
(43) 公開日	平成22年8月26日 (2010.8.26)	(74) 代理人	100111095
審査請求日	平成24年2月10日 (2012.2.10)		弁理士 川口 光男
		(72) 発明者	原田 紀彦
			愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社 三洋物産 内
		審査官	篠崎 正

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

所定条件が成立した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態を発生させる遊技機であって、

互いに当接する閉鎖位置と、互いに離間した開放位置との間で動作する複数の開閉部材と、

前記開閉部材を駆動させる駆動手段と、

前記複数の開閉部材のうちの少なくとも1つに対応して、当該開閉部材を前記開放位置から前記閉鎖位置へ向かう閉鎖方向へ付勢する付勢手段とを備え、

前記閉鎖位置から前記開放位置へ向かう開放方向へ前記複数の開閉部材をそれぞれ移動させる際に、前記複数の開閉部材のうち前記付勢手段に係る開閉部材を、その他の開閉部材よりも先に動作開始させる制御を実行可能としたことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ機等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

遊技機的一种としてパチンコ機がある。パチンコ機では、例えば、遊技球を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられた所定の始動入球手段に遊技球が入球する

と大当たり状態を発生させるか否か当否抽選を行い、これに伴い所定の表示装置において識別情報が変動表示され、前記当否抽選の抽選結果に基づいた特定態様で識別情報が停止表示されると、遊技者に有利な大当たり状態が発生し、遊技者は多くの遊技価値（賞球）を獲得することが可能となる。

【0003】

パチンコ機等の遊技機の中には、遊技者の興趣を向上させるべく、可動役物等を備えたものもある。例えば表示装置の表示部を開閉部材により一時的に遮蔽する演出等が行われるものがある（例えば、特許文献1参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0004】

【特許文献1】特開2005-540号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記従来技術のように2つの開閉部材が互いに当接して閉鎖状態となる構成においては、閉鎖中の開閉部材間に隙間が生じるおそれがある。ひいては、遊技者にとっての興趣が低下するおそれがある。

【0006】

本発明は、上記例示した問題点などを解決するためになされたものであり、その目的は、興趣の低下抑制等を図ることのできる遊技機を提供することにある。

20

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記の目的を達成するため、本発明に係る遊技機は、
所定条件が成立した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態を発生させる遊技機であって、

互いに当接する閉鎖位置と、互いに離間した開放位置との間で動作する複数の開閉部材と、

前記開閉部材を駆動させる駆動手段と、

前記複数の開閉部材のうちの少なくとも1つに対応して、当該開閉部材を前記開放位置から前記閉鎖位置へ向かう閉鎖方向へ付勢する付勢手段とを備え、

30

前記閉鎖位置から前記開放位置へ向かう開放方向へ前記複数の開閉部材をそれぞれ移動させる際に、前記複数の開閉部材のうち前記付勢手段に係る開閉部材を、その他の開閉部材よりも先に動作開始させる制御を実行可能としたことをその要旨としている。

【発明の効果】

【0008】

本発明の遊技機によれば、興趣の低下抑制等を図るという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【0009】

【図1】一実施形態におけるパチンコ機を示す正面図である。

40

【図2】パチンコ機を示す斜視図である。

【図3】内枠及び前面枠セットを開放した状態を示す斜視図である。

【図4】内枠および遊技盤等の構成を示す正面図である。

【図5】パチンコ機の構成を示す背面図である。

【図6】内枠及び裏パックユニット等を開放した状態を示す斜視図である。

【図7】可変表示装置ユニットの斜視図である。

【図8】可変表示装置ユニットの正面側からの分解斜視図である。

【図9】可変表示装置ユニットの背面側からの分解斜視図である。

【図10】上部役物ユニット及び下部役物ユニットを組付けたフレームカバーの斜視図である。

50

【図 1 1】センターフレームの正面図である。

【図 1 2】上部役物ユニットの正面側からの分解斜視図である。

【図 1 3】上部役物ユニットの背面側からの分解斜視図である。

【図 1 4】カバー部を取外した状態の上部役物ユニットの正面図である。

【図 1 5】(a)は、閉鎖位置にあるシャッタ片 8 1 1, 8 1 2 及びこれに係る駆動機構との位置関係を示す図であり、(b)は、閉鎖位置にあるシャッタ片 8 1 1, 8 1 2 とカバー部との位置関係を示す図である。

【図 1 6】(a)は、開放位置にあるシャッタ片 8 1 1, 8 1 2 及びこれに係る駆動機構との位置関係を示す図であり、(b)は、開放位置にあるシャッタ片 8 1 1, 8 1 2 とカバー部との位置関係を示す図である。

10

【図 1 7】(a)は、開放動作を開始した直後の状態にあるシャッタ片 8 1 1, 8 1 2 及びこれに係る駆動機構との位置関係を示す図であり、(b)は、その状態におけるシャッタ片 8 1 1, 8 1 2 とカバー部との位置関係を示す図である。

【図 1 8】パチンコ機の主な電氣的構成を示すブロック図である。

【図 1 9】サブ制御装置にて行われる通常処理のフローチャートである。

【図 2 0】上部役物設定処理のフローチャートである。

【発明を実施するための形態】

【0010】

上述したように、遊技機的一种としてパチンコ機がある。パチンコ機では、例えば、遊技球を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられた所定の始動入球手段に遊技球が入球すると大当たり状態を発生させるか否か当否抽選を行い、これに伴い所定の表示装置において識別情報が変動表示され、前記当否抽選の抽選結果に基づいた特定態様で識別情報が停止表示されると、遊技者に有利な大当たり状態が発生し、遊技者は多くの遊技価値（賞球）を獲得することが可能となる。

20

【0011】

パチンコ機等の遊技機の中には、遊技者の興趣を向上させるべく、可動役物等を備えたものもある。例えば、可動役物としてシャッタ役物を備え、液晶表示装置等において行われる多彩な表示演出に併せて、表示装置の表示部を開閉部材により一時的に遮蔽する演出等が行われるものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

【0012】

しかしながら、上記従来技術のように開閉部材が所定部位に当接して閉鎖状態となる構成においては、開閉部材の閉鎖速度を速くする等した場合、閉鎖時の衝撃が大きくなり、開閉部材自体は勿論のこと、これを動かす駆動機構との連結部位などにかかる負荷も大きくなる。その結果、次第に開閉部材と当接部位との間に隙間が生じたり、開閉部材と駆動機構との組付け状態にガタツキが生じるなど、耐久性が低下するおそれがある。

30

【0013】

本発明は、上記例示した問題点などを解決するためになされたものであり、その目的は、耐久性の低下抑制等を図ることのできる遊技機を提供することにある。

【0014】

以下、パチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）の一実施形態を、図面に基づいて詳細に説明する。ここで、図 1 はパチンコ機 1 0 の正面図であり、図 2 は斜視図であり、図 3 は内枠 1 2 及び前面枠セット 1 4 を開放した状態を示す斜視図である。図 4 は内枠 1 2 及び遊技盤 3 0 等の構成を示す正面図である。図 5 はパチンコ機 1 0 の背面図であり、図 6 は内枠 1 2 及び裏パックユニット 2 0 3 等を開放した状態を示す斜視図である。但し、図 3 では便宜上、遊技盤 3 0 面上に配設される釘や役物、前面枠セット 1 4 に取付けられるガラスユニット 1 3 7 等を省略して示している。

40

【0015】

図 3 等 to 示すように、パチンコ機 1 0 は、当該パチンコ機 1 0 の外郭を構成する外枠 1 1 を備えており、この外枠 1 1 の一側部に内枠 1 2 が開閉可能に支持されている。

【0016】

50

外枠 11 は、図 6 等に示すように、上辺枠構成部 11a 及び下辺枠構成部 11b が木製の板材により構成され、左辺枠構成部 11c 及び右辺枠構成部 11d がアルミニウム合金製の押出成形材により構成され、これら各枠構成部 11a ~ 11d がネジ等の離脱可能な締結具により全体として矩形枠状に組み付けられている。

【0017】

左辺枠構成部 11c の上下端部には、それぞれ上ヒンジ 81 及び下ヒンジ 82 が取付されている（図 1 参照）。当該上ヒンジ 81 及び下ヒンジ 82 にて、内枠 12 の上下部が回動可能に支持されており、これにより内枠 12 が開閉可能となる。そして、外枠 11 の内側に形成される空間部に内枠 12 等が収容される。

【0018】

また、右辺枠構成部 11d には、その幅方向後端部近傍から外枠 11 内側へ向け突出した延出壁部 83 が形成されている。延出壁部 83 は、内枠 12 の右側部背面側に設けられる施錠装置 600（図 6 参照）に対応する上下区間全域を内枠 12 の背面側から覆っている（図 5 参照）。加えて、図 3 に示すように、延出壁部 83 の前面側には、施錠装置 600 の係止部材が係止される上下一対の受部 84, 85 が設けられている。また、下側の受部 85 には、後述する内枠開放検知スイッチ 92 に当接する押圧部 86 が、外枠 11 内側に向けて突設されている。

【0019】

さらに、下辺枠構成部 11b には樹脂製の幕板飾り 87 が取付されている。幕板飾り 87 の上面奥部には、上方に突出するリブ 88 が一体形成されている。これにより内枠 12 との間に隙間が形成されにくくなっている。

【0020】

図 3 に示すように、内枠 12 の開閉軸線は、パチンコ機 10 の正面からみて左側において上下に沿って設定されており、この開閉軸線を軸心として内枠 12 が前方側に開放できるようになっている。内枠 12 は、外形が矩形状をなす樹脂ベース 38 を主体に構成されており、当該樹脂ベース 38 の中央部には略楕円形状の窓孔 39 が形成されている。

【0021】

また、内枠 12 の前面側には前面枠セット 14 が開閉可能に取付けられている。前面枠セット 14 は、内枠 12 と同様に、パチンコ機 10 の正面から見て左側において上下に沿って設定された開閉軸線を軸心として前方側に開放できるようになっている。

【0022】

前面枠セット 14 は、内枠 12 と同様に外形が矩形状をなし、閉鎖状態においては内枠 12 の前面側ほぼ全域を覆う。前面枠セット 14 の中央部には略楕円形状の窓部 101 が形成されている。これにより、前面枠セット 14 の窓部 101 及び内枠 12 の窓孔 39 を介して、内枠 12 の後面に装着される遊技盤 30（遊技領域）を外部から視認可能となる。遊技盤 30 の詳細な構成については後述する。

【0023】

図 1 に示すように、前面枠セット 14 の前面側には、その下部中央において球受皿としての下皿 15 が設けられており、排出口 16 より排出された遊技球 B が下皿 15 内に貯留可能になっている。また、下皿 15 の手前側には、下皿 15 内から遊技球 B を排出するための球抜きレバー 25 が設けられている。加えて、下皿 15 の左部には、LED が内蔵された演出ボタン 125 が設けられており、演出ボタン 125 を押圧操作することで、後述する装飾図柄表示装置 42 等において対応する演出が行われたり、演出内容が変更されたりする。

【0024】

下皿 15 の右方には、手前側に突出した遊技球発射ハンドル（以下、単にハンドルという）18 が設けられている。尚、ハンドル 18 には、図示しないタッチセンサや、ハンドル 18 の操作部の操作量を検出するための図示しない操作量検出手段が設けられている。

【0025】

下皿 15 の上方には上皿 19 が設けられている。上皿 19 は、遊技球 B を一旦貯留し、

10

20

30

40

50

一列に整列させながら後述する発射手段としての遊技球発射装置（以下、単に発射装置という）60の方へ案内する球受皿である。尚、上皿19が遊技球Bで満杯になった状態では、払出される遊技球Bは、後述する下皿連通路71及び排出口16を介して、下皿15へと案内される。

【0026】

上皿19には球貸しボタン121と返却ボタン122とが設けられている。これにより、遊技ホール等において、パチンコ機10の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）に紙幣やカード等を投入した状態で球貸しボタン121が操作されると、その操作に応じて貸出球が上皿19に供給される。一方、返却ボタン122は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。但し、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿19に遊技球Bが直接貸し出されるパチンコ機、いわゆる現金機では球貸しボタン121及び返却ボタン122は不要である。

10

【0027】

さらに、上皿19には、球抜きボタン123が設けられている。球抜きボタン123が押圧操作されることで、上皿19の球案内路の下流側に設けられ、下皿15に連通する連通路（図示略）が開口し、上皿19に貯留されていた遊技球Bが下皿15へと案内される（落下する）。つまり、遊技者は、球抜きボタン123を操作することで、上皿19にある遊技球Bをいつでも下皿15に移すことができる。

【0028】

また、前面枠セット14の前面にはその周囲に各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等における遊技状態の変化に応じて点灯、点滅といった発光態様を変更制御され遊技中の演出効果を高める役割を果たすものである。例えば、窓部101の周縁には、LED等の発光手段を内蔵した枠ランプ102が設けられている。また、該枠ランプ102の両側部には、所定のエラー時に点灯するエラー表示ランプ104が設けられている。尚、枠ランプ102のうち各エラー表示ランプ104の上方部位には、前面枠セット14の背面に設けられるスピーカSP（図3参照）に対応して細かな透孔が多数形成されている。

20

【0029】

前面枠セット14の背面側にはガラスユニット137が取付けられている。ガラスユニット137は、従来の前後一對の矩形状の板ガラスが前後対をなして別々に装着されるものではなく、全体として丸形をなし、アセンブリ化された上で取付けられている。

30

【0030】

次に、内枠12（樹脂ベース38）について図4を参照して説明する。上述した通り、内枠12（樹脂ベース38）には、窓孔39の後側において遊技盤30が装着されている。遊技盤30は、その周縁部が内枠12（樹脂ベース38）の裏側に当接した状態で装着されている。従って、遊技盤30の前面部の略中央部分が樹脂ベース38の窓孔39を通じて内枠12の前面側に露出した状態となっている。

【0031】

また、内枠12（樹脂ベース38）の前面下部、すなわち窓孔39（遊技盤30）の下位置には、発射装置60及び当該発射装置60より発射された直後の遊技球Bを案内する発射レール61が取付けられている。本実施形態では、発射装置60としてソレノイド式発射装置を採用している。また、発射装置60の上方には、上皿19から案内される遊技球Bを、内蔵された駆動手段（例えばソレノイド）の駆動により、1球ずつ発射装置60の発射位置へと案内する球送り装置63が設けられている。

40

【0032】

次に、遊技盤30の構成について図4を参照して説明する。遊技盤30には、一般入賞口31、可変入賞装置32、始動入賞ユニット（始動口）33、スルーゲート34、可変表示装置ユニット35、第1特別表示装置43L及び第2特別表示装置43R等がルータ加工によって形成された貫通孔に配設され、遊技盤30前面側から木ネジ等により取付けられている。周知の通り一般入賞口31、可変入賞装置32、始動入賞ユニット33など

50

の各種入賞口に遊技球 B が入球（入賞）すると、各種検出スイッチにより検出され、上皿 19（又は下皿 15）へ所定数の賞球が払い出される。例えば、始動入賞ユニット 33 への入球があった場合には 3 個、一般入賞口 31 への入球があった場合には 10 個、可変入賞装置 32 への入球があった場合には 15 個の遊技球 B が上皿 19（下皿 15）に払出される。その他に、遊技盤 30 にはアウト口 36 が設けられており、一般入賞口 31 等の各種入賞口に入賞しなかった遊技球 B は、このアウト口 36 を通って遊技領域外へと排出される。また、遊技盤 30 には、遊技球 B の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）が配設されている。

【0033】

始動入賞ユニット 33 は、所定の入球手段（始動入球手段）としての上入賞口 33a（第 1 始動入球手段）及び下入賞口 33b（第 2 始動入球手段）と、下入賞口 33b の両側部に設けられた開閉する一対の開閉部材 33c を備えている。上入賞口 33a は、遊技球 B が常時入球可能となっているのに対し、下入賞口 33b は、開閉部材 33c が所定条件の成立に応じて開閉動作することにより、遊技領域を流下する遊技球 B が入球可能な開状態と、遊技球 B が入球不可能な閉状態との間で状態変化可能に構成されている。尚、詳しくは後述するが、始動入賞ユニット 33 は、上入賞口 33a、下入賞口 33b に入球した遊技球 B をそれぞれ検知する条件成立検出手段（入球検知手段）としての第 1 始動入賞スイッチ 224a、第 2 始動入賞スイッチ 224b を備えており、当該始動入賞スイッチ 224a、224b にて遊技球 B が検知された場合に、大当たり状態を発生させるか否かの当否抽選が行われるとともに、特別表示装置 43L、43R（及び後述する装飾図柄表示装置 42）にて変動表示が行われる構成となっている。そして、当否抽選にて当選した場合には、大当たり状態（特別遊技状態）が付与される。

【0034】

本実施形態では、大当たり種別として、「16R 確変大当たり」、「16R 通常大当たり」、「2R 確変大当たり」及び「2R 潜伏確変大当たり」がある。「16R 確変大当たり」及び「16R 通常大当たり」の大当たり状態においては、可変入賞装置 32 が 30 秒間開放状態とされる、又は可変入賞装置 32 に 8 個の遊技球 B が入賞することを 1 ラウンドとして、これが 16 回繰り返される。一方、「2R 確変大当たり」及び「2R 潜伏確変大当たり」の大当たり状態においては、可変入賞装置 32 が 0.4 秒間開放状態とされることを 1 ラウンドとして、これが 2 回繰り返される。すなわち、「16R 確変大当たり」及び「16R 通常大当たり」の大当たり状態は、遊技球 B の大幅な増加が望めるのであるが、「2R 確変大当たり」及び「2R 潜伏確変大当たり」の大当たり状態は、大当たり状態中に獲得可能な遊技球 B の数が著しく少ない（遊技球 B の増加がほぼ望めない）ものとなる。

【0035】

さらに、「16R 確変大当たり」、「2R 確変大当たり」又は「2R 潜伏確変大当たり」が発生した場合には、大当たり状態の終了後に高確率状態（特定モードとしての高確率モード）が付与される。但し、「2R 潜伏確変大当たり」が発生した場合には、高確率モードが付与されている状態を遊技者が認識しにくい状態、すなわち潜伏状態（潜伏確変モード）となる。一方、「16R 通常大当たり」が発生した場合、大当たり状態の終了後に低確率状態（時間短縮モードや通常モード等の低確率モード）が付与される。

【0036】

尚、本実施形態では、遊技球 B が上入賞口 33a に入球した場合と、下入賞口 33b に入賞した場合とで、当否抽選にて当選した場合に付与される大当たり種別の振分けが異なるようになっている。上入賞口 33a への遊技球 B の入球を契機とする当否抽選に当選した場合には、「16R 確変大当たり」、「16R 通常大当たり」、「2R 確変大当たり」又は「2R 潜伏確変大当たり」のいずれかに振分けられ、下入賞口 33b への遊技球 B の入球を契機とする当否抽選に当選した場合には、「16R 確変大当たり」又は「16R 通常大当たり」のどちらかに振分けられることとなる。

【0037】

第1及び第2特別表示装置43L、43Rは、7セグメント表示装置により構成され、可変入賞装置32の右方に設置されている。そして、始動入賞ユニット33の上入賞口33aへの遊技球Bの入球を契機として第1特別表示装置43Lにて切替表示(変動表示)が行われ、下入賞口33bへの遊技球Bの入球を契機として第2特別表示装置43Rにて切替表示(変動表示)が行われる構成となっている。尚、特別表示装置43L、43Rは、後述する主制御装置261によって表示内容が直接的に制御される。

【0038】

また、第1及び第2特別表示装置43L、43Rにて変動表示が行われた後、当該変動表示が停止したときの表示態様(例えば、文字)により、大当たりか否かが確定的に表示される。例えば、上入賞口33aに遊技球Bが入賞すると、対応する第1特別表示装置43Lにて、「-」「7」「3」「2」「1」「-」・・・という具合に高速で(例えば4msec毎に)切替表示(変動表示)がなされ、所定時間が経過すると、いずれかの表示態様を停止表示(例えば数秒間停止)する。そして、大当たり抽選に当選した場合には、「7」、「3」、「2」、「1」のいずれかが変動停止時に表示され、大当たり状態が発生する。但し、遊技球Bが下入賞口33bへ入賞した場合には、「2R確変大当たり」及び「2R潜伏確変大当たり」は発生しないため、第2特別表示装置43Rにおいて「2」、「1」が決定表示されることはない。

【0039】

具体的に、「16R確変大当たり」が付与される場合には、第1又は第2特別表示装置43L、43Rにおいて「7」が停止表示され、「16R通常大当たり」が付与される場合には、第1又は第2特別表示装置43L、43Rにおいて「3」が停止表示され、「2R確変大当たり」が付与される場合には第1特別表示装置43Lにおいて「2」が停止表示され、「2R潜伏確変大当たり」が付与される場合には第1特別表示装置43Lにおいて「1」が停止表示される。

【0040】

また、第1特別表示装置43L又は第2特別表示装置43Rのどちらか一方において、変動表示又は決定表示が行われている場合には、他方が消灯状態とされており(「-」を表示しておいてもよい)、どちらにおいても変動表示及び決定表示が行われていない場合には、両方においてそれぞれ「-」が表示される。

【0041】

また、第1又は第2特別表示装置43L、43Rの変動表示中に新たに遊技球Bが始動入賞ユニット33に入賞した場合には、その分の変動表示は、その時点で行われている変動表示の終了後に行われる構成となっている。つまり、変動表示が待機(保留)されることとなる。この保留される変動表示の最大回数は、パチンコ機の機種毎に決められているが、本実施形態では、上入賞口33aに入賞した遊技球B、及び下入賞口33bに入賞した遊技球Bに対応して、それぞれ4回までの変動表示(合計8回の変動表示)が保留される。また、その保留回数が第1保留ランプ46a、第2保留ランプ46bにて点灯表示されるようになっている。尚、大当たり状態中に新たに遊技球Bが始動入賞ユニット33に入賞した場合、その分の変動表示についても保留される。

【0042】

尚、基本的に、上入賞口33aへの入賞を契機とする変動表示は、対応する遊技球Bが上入賞口33aへ入球した順に記憶されるとともに入球した順に消化され、下入賞口33bへの入賞を契機とする変動表示は、対応する遊技球Bが下入賞口33bへ入球した順に記憶されるとともに入球した順に消化される。但し、上入賞口33aへの入賞を契機とする変動表示、及び、下入賞口33bへの入球を契機とする変動表示の両方が保留されている場合(第1保留ランプ46a及び第2保留ランプ46bがそれぞれ1つ以上点灯している場合)には、下入賞口33bへの入球を契機とする変動表示が優先的に消化される。すなわち、下入賞口33bへの入賞を契機とする変動表示が全て消化された状態でなければ、上入賞口33aへの入球を契機とする変動表示が行われない構成となっている。例えば、第1保留ランプ46aが1つ点灯している状態において、下入賞口33bに遊技球Bが

入球し、第2保留ランプ46bが1つ点灯した場合、上入賞口33aへの入球を契機とする変動表示が後回しにされ、先に下入賞口33bへの入球を契機とする変動表示が行われることとなる。

【0043】

また、スルーゲート34は、遊技領域を流下する遊技球Bが1球ずつ通過可能に構成されている。詳しくは後述するが、スルーゲート34は、当該スルーゲート34を通過する遊技球Bを検知可能なスルーゲートスイッチ225を備えており、当該スルーゲートスイッチ225にて遊技球Bが検知された場合に、始動入賞ユニット33を開状態とするか否かの開放抽選が行われるとともに、普通図柄表示装置41にて変動表示が行われる構成となっている。そして、開放抽選にて当選した場合には、始動入賞ユニット33（開閉部材33c）が規定時間だけ開状態とされる。





10

【0044】

可変表示装置ユニット35には、スルーゲート34の通過を契機として変動表示する普通図柄表示装置41と、第1及び第2特別表示装置43L、43Rによる変動表示に合わせて変動表示する装飾図柄表示装置42とが設けられている。さらに、可変表示装置ユニット35には、装飾図柄表示装置42にて行われている変動表示が上入賞口33a及び下入賞口33bのうちどちらの入球に対応するものであるかを示す変動特定ランプ40と、上記第1保留ランプ46a及び第2保留ランプ46bと、保留ランプ44とが設けられている。

【0045】

20

普通図柄表示装置41は、普通図柄として「」又は「x」を点灯表示可能に構成されており、遊技球Bがスルーゲート34を通過する毎に例えば普通図柄を「」「x」「」・・・という具合に高速で切換表示（変動表示）する。そして、その変動表示が「」図柄（当選図柄）で数秒間停止した場合には、始動入賞ユニット33が所定時間だけ開状態となる。この普通図柄表示装置41は、後述する主制御装置261によって直接的に表示内容が制御される。

【0046】

また、普通図柄表示装置41の変動表示中に、新たに遊技球Bがスルーゲート34を通過した場合には、その分の変動表示は、その時点で行われている変動表示の終了後に行われる構成となっている。つまり、変動表示が待機（保留）されることとなる。この保留される変動表示の最大回数は、パチンコ機の機種毎に決められているが、本実施形態では4回まで保留され、その保留回数が保留ランプ44にて点灯表示されるようになっている。

30

【0047】

装飾図柄表示装置42は液晶表示装置により構成されており、後述するサブ制御手段としてのサブ制御装置262及び表示制御装置45によって表示内容が制御される。すなわち、装飾図柄表示装置42においては、第1及び第2特別表示装置43L、43Rにて表示される結果に対応させるように、主制御手段としての主制御装置261からのコマンドに基づき、サブ制御装置262によって補助的な表示内容が決定され、後述する表示制御装置45によって表示が行われる。

【0048】

40

装飾図柄表示装置42には、例えば、上、中及び下の3つの図柄表示領域が設けられ、各図柄表示領域において複数種類の図柄（数字）が順次表示され（変動表示され）、その後、図柄表示領域毎に順番に（例えば、上図柄表示領域 下図柄表示領域 中図柄表示領域の順に）図柄が停止表示されるようになっている。例えば、主制御装置261にて「16R確変大当たり」又は「16R通常大当たり」が確定すると、第1又は第2特別表示装置43L、43Rにて大当たりに対応する表示がなされるとともに、装飾図柄表示装置42にて図柄が大当たりに対応する組合わせで停止表示され（例えば、上図柄表示領域、中図柄表示領域、及び下図柄表示領域にて停止表示される図柄が同一となり）、大当たり状態が開始される。なお、「2R確変大当たり」又は「2R潜伏確変大当たり」の場合、後述するように装飾図柄表示装置42にて停止表示される図柄の組合わせは、大当たりに対

50

応するものではない。

【 0 0 4 9 】

また、図柄が大当たりに対応する組合わせで停止表示される場合には、その前段階として、例えば、上図柄表示領域及び下図柄表示領域において同一の図柄が停止表示されることとなる。このように上図柄表示領域及び下図柄表示領域にて同一図柄が停止表示されるとともに、中図柄表示領域において未だ変動表示が行われている状態がリーチ状態である。

【 0 0 5 0 】

尚、リーチ状態が発生しても、大当たり状態が発生しない場合には、上図柄表示領域及び下図柄表示領域において停止表示された図柄とは異なる図柄が中図柄表示領域において停止表示される。また、「 1 6 R 確変大当たり」又は「 1 6 R 通常大当たり」となる場合には、上記のように装飾図柄表示装置 4 2 においてゾロ目の数字が停止表示されるのではあるが、「 2 R 確変大当たり」となる場合には、ゾロ目ではなく、予め定められた特定の数字の組合わせ（以下、チャンス図柄と称する）が停止表示される。例えば、上・中・下図柄表示領域において、「 3 」・「 4 」・「 1 」が停止表示される。「 2 R 潜伏確変大当たり」となる場合には、予め定められた特定の数字の組合わせではなく、表面上、外れ時と同様に、ランダムな外れの組合わせで停止表示される。

【 0 0 5 1 】

加えて、変動特定ランプ 4 0 は、発光色が青色の L E D 及び発光色が赤色の L E D を備えており、装飾図柄表示装置 4 2 において、上入賞口 3 3 a への入球を契機とする変動表示が行われている場合には青色に発光し、下入賞口 3 3 b への入球を契機とする変動表示が行われている場合には赤色に発光する。

【 0 0 5 2 】

また、演出装置としての可変表示装置ユニット 3 5 には、装飾図柄表示装置 4 2 を囲むようにして枠部材としてのセンターフレーム 4 7 が配設されている。可変表示装置ユニット 3 5 及びセンターフレーム 4 7 の詳細については後述する。

【 0 0 5 3 】

可変入賞装置 3 2 は、通常は遊技球 B が入賞できない閉状態になっており、大当たり（特別遊技状態の発生）の際に、遊技球 B が入賞可能な開状態とされる。

【 0 0 5 4 】

また、遊技盤 3 0 には、内レール構成部 5 1 と外レール構成部 5 2 とからなり、発射装置 6 0 から発射された遊技球 B を遊技盤 3 0 上部へ案内するレール 5 0 が取付けられている。これにより、ハンドル 1 8 の回動操作に伴い発射された遊技球 B は発射レール 6 1 及びレール 5 0 を通じて、遊技盤 3 0 とガラスユニット 1 3 7 との間に形成される遊技領域内に案内される。

【 0 0 5 5 】

内レール構成部 5 1 の先端部分（図 4 の左上部）には戻り球防止部材 5 3 が取着されている。これにより、一旦、レール 5 0 から遊技領域へと案内された遊技球 B が再度レール 5 0 内に戻ってしまうといった事態が防止される。

【 0 0 5 6 】

また、本実施形態では、外レール構成部 5 2 が遊技盤 3 0 の右上部で途絶え、内レール構成部 5 1 が遊技盤 3 0 の右下部で途絶えている。このため、遊技領域は、レール 5 0 及び樹脂ベース 3 8 の窓孔 3 9 の内周面により画定される。但し、発射装置 6 0 にて打出された遊技球 B が、戻り球防止部材 5 3 を通過するまでは、レール 5 0 を逆流する場合があるため、内外レール構成部 5 1 , 5 2 の並行部分は遊技領域から除かれる。

【 0 0 5 7 】

図 3 に示すように、前面枠セット 1 4 の背面側には、窓部 1 0 1 の下方において、球通路ユニット 7 0 が設けられている。球通路ユニット 7 0 は、後述する払出機構部 3 5 2 から下皿 1 5 の排出口 1 6 へ繋がる下皿連通路 7 1 と、払出機構部 3 5 2 から上皿 1 9 へ繋がる上皿連通路 7 3 と備えている。また、内枠 1 2 に設けられた発射レール 6 1 とレール

10

20

30

40

50

ユニット５０（外レール構成部５２）との間には所定間隔の隙間があり、球通路ユニット７０には、前記隙間より落下した遊技球Ｂを下皿１５へと案内するファール球通路７２が形成されている。これにより、仮に、発射装置６０から発射された遊技球Ｂが戻り球防止部材５３まで至らずファール球としてレール５０を逆戻りする場合には、そのファール球がファール球通路７２を介して下皿１５に排出される。

【００５８】

また、図３及び図４中の符号６７は後述する払出機構部３５２により払出された遊技球Ｂを内枠１２の前方に案内するための払出通路であり、上皿連通路７３（上皿１９）に通じる通路と、下皿連通路７１（下皿１５）に通じる通路とに分かれている。払出通路６７の下方にはシャッタ６８が設けられており、前面枠セット１４を開放した状態では、バネ等の付勢力によりシャッタ６８が前方に突出して払出通路６７の出口をほぼ閉鎖するようになっている。また、前面枠セット１４を閉じた状態では、下皿連通路７１の入口側後端部によってシャッタ６８が押し開けられるようになっている。尚、下皿連通路７１及び上皿連通路７３の入口（球流入部）が隣接するとともに、前面枠セット１４の閉状態において当該各入口と払出通路６７とが所定距離だけ離間しており、両者間の隙間を遊技球Ｂが通過可能となっている。このため、上皿１９及び上皿連通路７３が遊技球Ｂで満杯となると、払出される遊技球Ｂが下皿連通路７１側に流れ（下皿連通路７１の入口側に溢れ）、下皿連通路７１を通過して下皿１５に払出されることとなる。

【００５９】

加えて、球通路ユニット７０には、下皿連通路７１内に位置する遊技球Ｂを検知する満杯検知スイッチ（図示略）が設けられている。当該満杯検知スイッチの存在により、下皿１５が遊技球Ｂで満杯になっていること（下皿１５が遊技球Ｂで満杯となり、下皿連通路７１において遊技球Ｂが滞留していること）を把握することができる。本実施形態では、満杯検知スイッチによって所定時間継続して遊技球Ｂが検知されることに基づき、発射装置６０の打出しを禁止するといった制御が行われる。尚、下皿連通路７１における遊技球Ｂの滞留が解消され、満杯検知スイッチにより遊技球Ｂが検知されなくなると（所定時間継続して検知されなくなると）発射装置６０の打出しが許容される。

【００６０】

次に可変表示装置ユニット３５の構成について詳しく説明する。本実施形態では、図７に示すように、センターフレーム４７が遊技盤３０の前面側に固定され、フレームカバー２１３が遊技盤３０の裏面に固定されることによって、可変表示装置ユニット３５として一体化される構成となっている。

【００６１】

フレームカバー２１３には、図８，９に示すように、その中央部に矩形状の開口部２１３ａが形成されており、その背面側に液晶表示装置たる装飾図柄表示装置４２が着脱自在に取付けられる。

【００６２】

可変表示装置ユニット３５には、センターフレーム４７とフレームカバー２１３との間において、上部役物ユニット７６１及び下部役物ユニット７６２が配設されている。図１０に示すように、上部役物ユニット７６１は、フレームカバー２１３の上辺部前面側に取付けられ、下部役物ユニット７６２は、フレームカバー２１３の下辺部前面側に取付けられている。

【００６３】

図１１等に示すように、センターフレーム４７は、その中央に略円形状の開口部７５１が形成された枠体形状をなし、当該開口部７５１を介して装飾図柄表示装置４２の液晶表示部４２ａが視認可能となる。

【００６４】

センターフレーム４７の開口部７５１の周囲には、その背面側から各種ＬＥＤ等を有したＬＥＤ制御基板７５２，７５３等が取着されている（図９参照）。

【００６５】

10

20

30

40

50

また、センターフレーム４７の背面側には、開口部７５１を覆うように透明な樹脂材料からなる保護部材としての保護パネル７５５が取着されている。

【００６６】

保護パネル７５５は、装飾図柄表示装置４２の液晶表示部４２ａの前面側を覆う矩形状で略平板状の画面保護部７５６と、下部役物ユニット７６２の前面側を覆う略平板状の役物保護部７５７とを備えている。また、役物保護部７５７の背面側（段差部７５８の下方位置）にて下部役物ユニット７６２の可動部材７６２ａが上下動するといった演出の行われる演出領域７５４（図１１参照）となる。

【００６７】

但し、両保護部７５６，７５７は、一体形成されたものであるが、平板状に連続しているものではなく、前後方向に段差を持って形成されている。役物保護部７５７の方が画面保護部７５６よりも前方に位置しており、両者の境界部には段差部７５８が形成されている。勿論、両保護部７５６，７５７及び段差部７５８が別体で形成される構成としてもよい。例えば、役物保護部７５７及び段差部７５８の部分が、画面保護部７５６とは別体で、センターフレーム４７の下辺部４７ｂの一部として設けられた構成、例えば後述のメインステージ部７７０と一体形成された構成としてもよい。

【００６８】

センターフレーム４７の上辺部４７ａは、下辺部４７ｂや左右辺部４７ｃ，４７ｄに比べ比較的幅広に形成されており、当該上辺部４７ａによって上部役物ユニット７６１が覆われる。上辺部４７ａは、左側より右側がやや大きく形成されており、当該右側部分において、後述する上部役物ユニット７６１のシャッタ片８１１，８１２や人面役物８０４等を視認可能とする円形の窓部７６３が形成されている。

【００６９】

ここで、上部役物ユニット７６１について図１２～図１４を参照して詳しく説明する。上部役物ユニット７６１の外郭を構成するケーシングは、合成樹脂材料製のベース部８０１及びカバー部８０２をネジ等により前後に組付けることで構成されている。

【００７０】

ベース部８０１の右側には、略矩形状の収容孔部８０３が形成されている。当該収容孔部８０３には、人間の顔を模した人面役物８０４が背面側から嵌め込まれている。人面役物８０４の目８０４ａの内部にはＬＥＤが配設されている。

【００７１】

人面役物８０４の前面側には、その目８０４ａを覆うようにメガネ役物８０５が配設されている。メガネ役物８０５は、人面役物８０４の上部と収容孔部８０３の上辺部に固定される軸棒８０６に沿って上下方向にスライド可能に設けられている。

【００７２】

ベース部８０１側には、メガネ役物８０５を駆動させるソレノイド等からなる駆動機構８０７が配設されている。駆動機構８０７は、メガネ役物８０５と係合するアーム部８０８を備えており、これによりメガネ役物８０５を上下動させる。

【００７３】

人面役物８０４及びメガネ役物８０５の前面側には、開閉部材としての上下一対のシャッタ片８１１，８１２が配設されている。両シャッタ片８１１，８１２は、それぞれ略半円形状をなし、両者が合わさることで全体として円形状となる。但し、両シャッタ片８１１，８１２の当接部は波型の湾曲形状となっている。

【００７４】

両シャッタ片８１１，８１２の背面側には、それぞれ駆動伝達部材としての支持片８１３，８１４が組付けられている。

【００７５】

上支持片８１３は、左右方向略中央部がやや前方に凸型に突出した略平板状をなし、上シャッタ片８１１に対しネジ等の固定手段により固定されている。

【００７６】

10

20

30

40

50

これに対し、下支持片 8 1 4 は、上下方向沿って形成された左側片部 8 1 4 a と当該左側片部 8 1 4 a の下端から右方向へ延びる下側片部 8 1 4 b とからなる略 L 字状をなし、下シャッタ片 8 1 2 に対しコイルばね 8 1 5 を介して組付けられている。コイルばね 8 1 5 が本実施形態における緩衝手段、付勢手段、弾性手段を構成する。

【 0 0 7 7 】

より詳しくは、下シャッタ片 8 1 2 の背面側には、後方へ突出した上下一対の突片部 8 1 7 , 8 1 8 が形成されている。一方、下支持片 8 1 4 の下側片部 8 1 4 b は、左右方向略中央部が前方に凸型に突出した形状をなし、当該箇所において、上下方向に貫通した円筒状の筒部 8 1 9 が形成されている。当該筒部 8 1 9 には、金属製の軸棒 8 2 0 が挿通されるとともに、当該軸棒 8 2 0 の周囲に上方からコイルばね 8 1 5 が嵌め込まれている。そして、コイルばね 8 1 5 を収縮させた状態で、軸棒 8 2 0 の上下端部がそれぞれ下シャッタ片 8 1 2 の突片部 8 1 7 , 8 1 8 に固定されている。これにより、コイルばね 8 1 5 が筒部 8 1 9 の所定部位と上側の突片部 8 1 7 との間に挟まれ、下シャッタ片 8 1 2 が上方（閉鎖方向）に付勢された状態となるとともに、下支持片 8 1 4 に対し上下方向に相対変位可能となる。

10

【 0 0 7 8 】

また、ベース部 8 0 1 の前面側には、収容孔部 8 0 3 の右側縁部及び左側縁部に沿って案内レール 8 2 3 , 8 2 4 が形成されている。案内レール 8 2 3 , 8 2 4 は、支持片 8 1 3 , 8 1 4 を案内するためのものである。

【 0 0 7 9 】

20

これに対し、支持片 8 1 3 , 8 1 4 の背面側には、それぞれ案内レール 8 2 3 , 8 2 4 に差し込まれる案内突起 8 2 5 , 8 2 6 が上下方向に沿って形成されている。

【 0 0 8 0 】

さらに、支持片 8 1 3 , 8 1 4 には、案内突起 8 2 5 , 8 2 6 が設けられた側とは左右方向にして反対側において、収容孔部 8 0 3 の側縁部に係合する係合部 8 2 7 , 8 2 8 が形成されている。

【 0 0 8 1 】

これにより、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2（支持片 8 1 3 , 8 1 4）が上下方向に沿ってスライド可能となる。

【 0 0 8 2 】

30

ベース部 8 0 1 には、収容孔部 8 0 3 よりやや右上方位置及び左下方位置において、駆動手段としての駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 が配設されている。駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 には、その回転軸にピニオン歯車 8 3 1 a , 8 3 2 a が取付けられている。

【 0 0 8 3 】

これに対し、上支持片 8 1 3 の右端縁部及び下支持片 8 1 4（左側片部 8 1 4 a）の左端縁部には、それぞれ駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 の駆動力を伝達するためのラック部 8 3 3 , 8 3 4 が上下方向に沿って設けられており、ピニオン歯車 8 3 1 a , 8 3 2 a と噛み合わされている。

【 0 0 8 4 】

これにより、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2（支持片 8 1 3 , 8 1 4）は、それぞれ駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 を正逆回転することで、個別に上下動する。駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 は、印加される駆動パルスによって回転制御されるステップモータであり、駆動パルスを調整することにより、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の移動量を制御できる。同時に、入力される駆動パルス数を監視することによって基準位置からのシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の変位量を把握することができる。

40

【 0 0 8 5 】

ベース部 8 0 1 には、支持片 8 1 3 , 8 1 4 の位置を検出するためのセンサ 8 3 7 , 8 3 8 が装着されている。本実施形態では、発光素子と受光素子とを離間して対向配置したフォトセンサを採用している。これに対応して、支持片 8 1 3 , 8 1 4 には、それぞれラック部 8 3 3 の下端部及びラック部 8 3 4 の上端部において遮光部 8 3 9 , 8 4 0 が突出

50

形成されている。そして、センサ 8 3 7 , 8 3 8 により遮光部 8 3 9 , 8 4 0 が検出されることにより、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 (支持片 8 1 3 , 8 1 4) が基準位置にあることが把握される。本実施形態では、図 1 4 に示すように、両シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が互いに当接する閉鎖位置が基準位置となるように調整されている。

【 0 0 8 6 】

ベース部 8 0 1 左側の背面側には、サブ制御装置 2 6 2 からの指示を受けて、駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2、メガネ役物 8 0 5 等の駆動制御や、センサ 8 3 7 , 8 3 8 の監視などを行う役物制御基板 8 4 4 が配設されている。

【 0 0 8 7 】

さて、カバー部 8 0 2 には、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 に対応して窓部 8 4 5 が形成されている。本実施形態では、当該窓部 8 4 5 を介してシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 がカバー部 8 0 2 の前面側に突出した状態で配設されている。

10

【 0 0 8 8 】

また、カバー部 8 0 2 の前面側には、窓部 8 4 5 の周辺において L E D 等を具備した L E D 基板 8 4 7 や、これを覆う透光性を有するレンズ部材 8 4 8 が配設されている。

【 0 0 8 9 】

ここで、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の動作態様について図 1 5 ~ 図 1 7 を参照して説明する。

【 0 0 9 0 】

図 1 5 (a) , (b) に示すように、通常時、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 は互いに当接した閉鎖位置に位置する。この状態では、コイルばね 8 1 5 が縮み、下シャッタ片 8 1 2 が上シャッタ片 8 1 1 に付勢された状態となっている。

20

【 0 0 9 1 】

そして、上シャッタ片 8 1 1 が上方へ移動し、下シャッタ片 8 1 2 が下方へ移動することにより、図 1 6 (a) , (b) に示すように、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 は互いに離間した開放位置に位置する。この際、コイルばね 8 1 5 は伸び、下シャッタ片 8 1 2 の位置が下支持片 8 1 4 に対し離間する方向 (閉鎖方向) に相対変位した状態となる。

【 0 0 9 2 】

シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が開放位置をとると、遊技者は、カバー部 8 0 2 の窓部 8 4 5 及びセンターフレーム 4 7 の窓部 7 6 3 を介して、人面役物 8 0 4 やメガネ役物 8 0 5 等を視認することができる。

30

【 0 0 9 3 】

なお、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が閉鎖位置 (図 1 5 参照) から開放位置 (図 1 6 参照) へ移動する開放動作を行う際には、図 1 7 (a) , (b) に示すように、まず先に下支持片 8 1 4 のみが下方へ動き始める。この段階では、依然として下シャッタ片 8 1 2 は、コイルばね 8 1 5 の付勢力により上方へ付勢され、上シャッタ片 8 1 1 との当接状態を維持する。そして、下支持片 8 1 4 が下方へ動きつつ、コイルばね 8 1 5 が伸び、筒部 8 1 9 の底部が下側の突片部 8 1 8 に当接した状態となるタイミングに合わせて、上支持片 8 1 3 も上方へ動き出す。その後は、上シャッタ片 8 1 1 が上方へ、下シャッタ片 8 1 2 が下方へ、それぞれ同じ速度で開放位置まで動いていく。

40

【 0 0 9 4 】

仮に上下両支持片 8 1 3 , 8 1 4 を同時に動かし始めた場合には、上シャッタ片 8 1 1 の重しのとれた下シャッタ片 8 1 2 がコイルばね 8 1 5 の伸びにより一旦、上方へ移動してしまう。このため、遊技者に違和感を抱かせてしまうおそれがある。先に下支持片 8 1 4 を動かす理由は、これを防止するためである。

【 0 0 9 5 】

また、本実施形態では、上下両シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 を当接 (閉鎖) させた状態のまま、上下方向へ小刻みに振動させる演出動作を行うように構成されている。かかる場合、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が閉鎖位置にある状態 (コイルばね 8 1 5 が縮んだ状態) から、上シャッタ片 8 1 1 (上支持片 8 1 3) のみを上下方向に振動させる。そうすると、

50

下支持片 8 1 4 は停止したまま、コイルばね 8 1 5 の伸び縮みにより、下シャッタ片 8 1 2 だけが上シャッタ片 8 1 1 につられて振動して、上下両シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が閉鎖状態のまま振動する動作態様を実現できる。

【 0 0 9 6 】

センターフレーム 4 7 の左辺部 4 7 c には、その内部に、遊技球 B を通過させる球通路（ワープ流路）7 6 4 が形成されている（図 1 1 等参照）。球通路 7 6 4 の入口部 7 6 4 a は、センターフレーム 4 7 の左辺部 4 7 c の上下方向略中央部に開口し、出口部 7 6 4 b は、上記保護パネル 7 5 5 の段差部 7 5 8 のやや上方位置に開口している。この球通路 7 6 4 により、遊技盤 3 0 面上を流下する遊技球 B をセンターフレーム 4 7 の内側へ導入させることができる。

10

【 0 0 9 7 】

尚、センターフレーム 4 7 は、単一部材から構成されているわけではなく、例えばベース部材に対し、メッキ等の施された各種装飾部材や、LED 等の光を透過する透明樹脂製のレンズ部材などが組付けられてなる。

【 0 0 9 8 】

さて、図 7 , 図 1 1 に示すように、センターフレーム 4 7 の下辺部 4 7 b の上面には、メインステージ部 7 7 0 が形成されている。

【 0 0 9 9 】

メインステージ部 7 7 0 は、左右方向に並行して延びる 2 つの転動部 7 7 1 , 7 7 2 を備えている。手前側の前転動部 7 7 1 と、奥側の後転動部 7 7 2 との間には、若干の高低差のあり、左右方向の大部分において後転動部 7 7 2 の方が高くなっている。前後両転動部 7 7 1 , 7 7 2 には、左右方向に沿って緩やかな起伏が形成されている。

20

【 0 1 0 0 】

後転動部 7 7 2 の中央部には、上方に向け開口し、遊技球 B が落下可能な落下孔 7 7 4 が形成されている。また、前転動部 7 7 1 の中央部の下方（内部）には、前記落下孔 7 7 4 に通じる連通路 7 7 5 が設けられている。連通路 7 7 5 の他方側は、センターフレーム 4 7 の下辺部 4 7 b の前側に開口し、落下孔 7 7 4 へ落下した遊技球 B を遊技盤 3 0 面上へ排出するための排出口 7 7 6 となっている。なお、センターフレーム 4 7 が遊技盤 3 0 に配設された状態では、図 4 に示すように、排出口 7 7 6 は始動入賞ユニット 3 3（上入賞口 3 3 a）の上方に位置する。これにより、落下孔 7 7 4 へ落下した遊技球 B が、比較的高い確率で始動入賞ユニット 3 3（上入賞口 3 3 a）に入球するようになっている。

30

【 0 1 0 1 】

前転動部 7 7 1 の中央部には、落下孔 7 7 4 の前方位位置において、奥側へ緩やかに下り傾斜となった誘導溝 7 7 8 が形成されている。これにより、前転動部 7 7 1 の誘導溝 7 7 8 を介しても、落下孔 7 7 4 へ遊技球 B が落下可能な構成となっている。

【 0 1 0 2 】

本実施形態では、メインステージ部 7 7 0 左側の上方位置には左上ステージ部 7 8 3 が設けられ、右側の上方位置には右上ステージ部 7 8 4 が設けられている。

【 0 1 0 3 】

左上ステージ部 7 8 3 の転動面は、左右方向に対し、下方へ凸となるように略円弧状に湾曲している。左上ステージ部 7 8 3 の左端部は、球通路 7 6 4 の出口部 7 6 4 b にまで達し、右端部は、保護パネル 7 5 5 の段差部 7 5 8 の高さ位置にまで達している。

40

【 0 1 0 4 】

保護パネル 7 5 5 の段差部 7 5 8 は、遊技球 B が左右方向へ転動可能な前後幅を有しており、遊技球 B を左上ステージ部 7 8 3 から右上ステージ部 7 8 4 へ導く案内手段の機能を有している。

【 0 1 0 5 】

右上ステージ部 7 8 4 は、メインステージ部 7 7 0 の前転動部 7 7 1 又は後転動部 7 7 2 へ遊技球 B を導く振分け部としての機能を有している。

【 0 1 0 6 】

50

上記構成により、遊技盤 30 面上の遊技領域から球通路 764 (入口部 764a) へ案内された遊技球 B は、出口部 764b から排出された後、左上ステージ部 783 を左から右へ転動し、保護パネル 755 の段差部 758 に乗り上げる。段差部 758 まで誘導された遊技球 B は、その勢いを保ちつつ、液晶表示部 42a の前を横切りながら、右上ステージ部 784 へ導かれる。

【0107】

右上ステージ部 784 へ案内された遊技球 B は、ここで振分けられ、メインステージ部 770 の前転動部 771 又は後転動部 772 へ導かれる。

【0108】

前転動部 771 へ案内された遊技球 B のうち、誘導溝 778 に乗った遊技球 B は、後転動部 772 の落下孔 774 へ導かれる。その他の遊技球 B は、前方から遊技盤 30 面上へ排出される。

【0109】

一方、後転動部 772 に案内された遊技球 B のうち、落下孔 774 へ落下した遊技球 B は、連通路 775 を介して遊技盤 30 面上へ案内される。排出口 776 から排出された遊技球 B は比較的高い確率で始動入賞ユニット 33 (上入賞口 33a) に入球する。その他の遊技球 B は、前方から前転動部 771 へ排出され、ひいては遊技盤 30 面上へ排出される。

【0110】

次に、パチンコ機 10 の背面構成について図 5、図 6 等を参照して説明する。パチンコ機 10 の背面には、各種制御基板が上下左右に並べられるようにして、一部前後に重ねられるようにして配置されており、さらに、遊技球 B を供給する遊技球供給装置 (払出機構) や樹脂製の保護カバー等が取り付けられている。払出機構及び保護カバーは 1 ユニットとして一体化されており、一般に樹脂部分を裏パックと称することもあるため、ここではそのユニットを「裏パックユニット 203」と称する。

【0111】

まず、遊技盤 30 の背面構成について説明する。図 6 に示すように、遊技盤 30 中央の貫通孔に対応して配設された可変表示装置ユニット 35 (図 4 参照) の背面側には、上述したように、センターフレーム 47 を背後から覆う樹脂製のフレームカバー 213 が後方に突出して設けられている。そして、このフレームカバー 213 の背面側に液晶表示装置たる装飾図柄表示装置 42 が着脱自在に取付けられている。本実施形態における装飾図柄表示装置 42 は、表示制御装置 45 と一体化 (ユニット化) されており、液晶表示部 (液晶パネル) 42a と表示制御装置 45 とが前後に重ね合わされ収容ボックス 45a に収容された状態となっている。

【0112】

装飾図柄表示装置 42 (収容ボックス 45a) の背面側には、サブ制御装置 262 が基板ボックス 262a に収容された状態で取付けられている。また、収容ボックス 45a 及び基板ボックス 262a は透明樹脂材料等により構成され、内部が視認可能となっている。

【0113】

フレームカバー 213 の下方には裏枠セット 215 が、一般入賞口 31、可変入賞装置 32 及び始動入賞ユニット 33 等を背後から覆うようにして遊技盤 30 に取付けられている。裏枠セット 215 は、各種入賞口に入賞した遊技球 B を回収するための球回収機構を備えている (図示略)。この球回収機構により回収された遊技球 B は、後述する排出通路部 217 に案内され、排出通路部 217 の排出シュートからパチンコ機 10 外部に排出される。

【0114】

また、本実施形態では、裏枠セット 215 が主制御装置 261 の取付台として機能する。より詳しくは、主制御装置 261 を搭載した基板ボックス 263 が、裏枠セット 215 に対し回動可能に軸支され、後方に開放可能となっている。

10

20

30

40

50

【0115】

主制御装置261は透明樹脂材料等よりなる基板ボックス263に收容されている。基板ボックス263は、ボックスベースと該ボックスベースの開口部を覆うボックスカバーとを備え、これらボックスベースとボックスカバーとが封印部材によって連結されている。封印部材によって連結された基板ボックス263は、所定の痕跡を残さなければ開封できない構成となっている。これにより、基板ボックス263が不正に開封された旨を容易に発見することができる。

【0116】

また、遊技盤30には、入球手段としての一般入賞口31等の各種入賞口に対応して、当該各種入賞口へ入球した遊技球Bを検出する入球検出スイッチ（入球検出手段）が設けられている。具体的には、図4に示すように、一般入賞口31に対応する位置には入賞口スイッチ221が設けられ、可変入賞装置32にはカウントスイッチ223が設けられている。また、始動入賞ユニット33には、上入賞口33a及び下入賞口33bそれぞれに対応して第1始動入賞スイッチ224a（第1条件成立検出手段）、第2始動入賞スイッチ224b（第2条件成立検出手段）が設けられている。さらに、スルーゲート34に対応する位置にはスルーゲートスイッチ225が設けられている。

10

【0117】

また、図示は省略するが、裏枠セット215には、入賞口スイッチ221、カウントスイッチ223及びスルーゲートスイッチ225とケーブルコネクタを介して電氣的に接続される第1盤面中継基板が設けられている。この第1盤面中継基板は、入賞口スイッチ221等と、主制御装置261とを中継するものであり、ケーブルコネクタを介して主制御装置261と電氣的に接続されている。

20

【0118】

これに対し、始動入賞ユニット33（上入賞口33a又は下入賞口33b）への入球を検出する始動入賞スイッチ224a、224bは中継基板を経ることなくコネクタケーブルを介して直接主制御装置261に接続されている。

【0119】

各種入球検出スイッチにて各々検出された検出結果は、主制御装置261に取り込まれる。そして、該主制御装置261よりその都度の入賞状況に応じた払出指令（遊技球Bの払出個数）が払出制御装置311に送信され、該払出制御装置311からの出力信号に基づき所定数の遊技球Bの払出しが実施される（スルーゲートスイッチ225により検出された場合を除く。）

30

この他、遊技盤30の裏面には、図示は省略するが、可変入賞装置32にて大入賞口を開放する大入賞口用ソレノイドが設けられ、始動入賞ユニット33にて一対の開閉部材33cを開閉駆動する入賞口用ソレノイドが設けられている。また、裏枠セット215には、これらソレノイドと主制御装置261とを中継する第2盤面中継基板（図示略）も設けられている。

【0120】

次に、裏パックユニット203の構成を説明する。図5に示すように、裏パックユニット203は、樹脂成形された裏パック351と、遊技球Bの払出機構部352とを一体化したものである。また、裏パックユニット203は、内枠12の左側部（図5では右側）に対して開閉可能に支持されており、上下方向に沿って延びる開閉軸線を軸心として後方に開放できるようになっている。加えて、裏パックユニット203の左上部（図5では右上部）には外部中継端子板240が設けられている。

40

【0121】

外部中継端子板240は、遊技ホールのホールコンピュータなどへの各種情報送信を中継するためのものであり、複数の外部接続端子が設けられている。便宜上、符号は付さないが、例えば現在の遊技状態（大当たり状態や高確率状態等）に関する情報を出力するための端子、後述する開放検知スイッチ91、92によって検出される前面枠セット14や内枠12の開放に関する情報を出力するための端子、入球エラー、下皿満タンエラー、タ

50

ンク球無しエラー、払出しエラーなど各種エラー状態に関する情報を出力するための端子、払出制御装置 3 1 1 から払出される賞球数に関する情報を出力するための端子などが設けられている。

【 0 1 2 2 】

裏パック 3 5 1 は例えば A B S 樹脂により一体成形されており、パチンコ機 1 0 の後方に突出して略直方体形状をなす保護カバー部 3 5 4 を備えている。保護カバー部 3 5 4 は左右側面及び上面が閉塞され且つ下面のみが開放された形状をなし、少なくともフレームカバー 2 1 3 を覆うのに十分な大きさを有する。但し、本実施形態では、保護カバー部 3 5 4 が基板ボックス 2 6 3 の上部及び右部（図 5 では左側の部位）も合わせて覆う構成となっている。これにより、裏パックユニット 2 0 3 の閉鎖状態において、基板ボックス 2 6 3 の右部に設けられた封印部材、及び主制御装置 2 6 1 の上縁部に沿って設けられた端子部（基板側コネクタ）が覆われることとなる。

10

【 0 1 2 3 】

払出機構部 3 5 2 は、保護カバー部 3 5 4 を迂回するようにして配設されている。すなわち、保護カバー部 3 5 4 の上方には、上側に開口したタンク 3 5 5 が設けられており、このタンク 3 5 5 には遊技ホールの島設備から供給される遊技球 B が逐次補給される。タンク 3 5 5 の下方には、例えば横方向 2 列の球通路を有し下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール 3 5 6 が連結され、さらにタンクレール 3 5 6 の下流側には縦向きにケースレール 3 5 7 が連結されている。払出装置 3 5 8 はケースレール 3 5 7 の最下流部に設けられ、払出モータ等の所定の電氣的構成により必要個数の遊技球 B の払出が適宜行われる。そして、払出装置 3 5 8 より払出された遊技球 B は上皿 1 9 等に供給される。

20

【 0 1 2 4 】

また、払出機構部 3 5 2 には、払出制御装置 3 1 1 から払出装置 3 5 8 への払出指令の信号を中継する払出中継基板 3 8 1 が設置されると共に、外部より主電源を取り込む電源スイッチ基板 3 8 2 が設置されている。電源スイッチ基板 3 8 2 には、電圧変換器を介して例えば交流 2 4 V の主電源が供給され、電源スイッチ 3 8 2 a の切替操作により電源 ON 又は電源 OFF される。

【 0 1 2 5 】

裏パックユニット 2 0 3（基板ボックス 2 6 3）の下方には、内枠 1 2 の左側部（図 5 では右側）にて軸支され、後方に開放可能な下枠セット 2 5 1 が設けられている。図 6 に示すように、下枠セット 2 5 1 には、上述した球回収機構により回収された遊技球 B が流入する排出通路部 2 1 7 が形成され、排出通路部 2 1 7 の最下流部には、遊技球 B をパチンコ機 1 0 外部へ排出する排出シュート（図示略）が形成されている。つまり、一般入賞口 3 1 等の各入賞口に入賞した遊技球 B は、裏枠セット 2 1 5 の球回収機構を介して集合し、さらに排出通路部 2 1 7 の排出シュートを通じてパチンコ機 1 0 外部に排出される。なお、アウト口 3 6 も同様に排出通路部 2 1 7 に通じており、何れの入賞口にも入賞しなかった遊技球 B も排出シュートを介してパチンコ機 1 0 外部に排出される。尚、本実施形態では、裏パックユニット 2 0 3 と下枠セット 2 5 1 とが別体として構成され、それぞれ独立して開閉可能であるが、裏パックユニット 2 0 3 と下枠セット 2 5 1 とが一体的に形成されることとしてもよい。

30

40

【 0 1 2 6 】

また、図 5 に示すように、下枠セット 2 5 1 の背面側には、払出制御装置 3 1 1、発射制御装置 3 1 2、電源装置 3 1 3 及びカードユニット接続基板 3 1 4 が前後に重ねられた状態で着脱可能に取り付けられている。

【 0 1 2 7 】

発射制御装置 3 1 2 及び電源装置 3 1 3 は基板ボックス 3 1 3 a に収容されて下枠セット 2 5 1 の背面側に固定されている。尚、発射制御装置 3 1 2 及び電源装置 3 1 3 は、便宜上それぞれ独立した制御装置として説明するが、実際には 1 つの基板（プリント基板）により構成される。

【 0 1 2 8 】

50

また、払出制御装置 3 1 1 は、基板ボックス 3 1 1 a に収容されて、基板ボックス 3 1 3 a (発射制御装置 3 1 2 及び電源装置 3 1 3) の背面側に固定されている。尚、払出制御装置 3 1 1 が収容される基板ボックス 3 1 1 a には、上述した主制御装置 2 6 1 が収容される基板ボックス 2 6 3 と同様に封印部材が設けられ、基板ボックス 3 1 1 a の開封された痕跡が残るようになっている。

【 0 1 2 9 】

加えて、カードユニット接続基板 3 1 4 は、基板ボックス 3 1 4 a に収容されて、基板ボックス 3 1 3 a (発射制御装置 3 1 2 及び電源装置 3 1 3) の背面側に固定されている。

【 0 1 3 0 】

なお、上記各基板ボックス 3 1 1 a , 3 1 3 a , 3 1 4 a は透明樹脂材料等により構成されており、内部が視認可能となっている。

【 0 1 3 1 】

また、払出制御装置 3 1 1 には基板ボックス 3 1 1 a から外方に突出する状態復帰スイッチ 3 2 1 が設けられている。例えば、払出モータ部の球詰まり等、払出エラーの発生時において状態復帰スイッチ 3 2 1 が押下されると、払出モータが正逆回転され、球詰まりの解消 (正常状態への復帰) が図られる。

【 0 1 3 2 】

さらに、電源装置 3 1 3 には基板ボックス 3 1 3 a から外方に突出する R A M 消去スイッチ 3 2 3 が設けられている。本パチンコ機 1 0 はバックアップ機能を有しており、万一停電が発生した際でも停電時の状態を保持し、停電からの復帰 (復電) の際には停電時の状態に復帰させることができる。従って、通常手順で (例えば遊技ホールの営業終了時に) 電源遮断すると電源遮断前の状態が記憶保持されることから、電源投入時に初期状態に戻したい場合には、R A M 消去スイッチ 3 2 3 を押しながら電源を投入する。

【 0 1 3 3 】

また、図 6 に示すように、内枠 1 2 の右側部背面側には施錠装置 6 0 0 が設けられている。施錠装置 6 0 0 は、前面枠セット 1 4 の前面側に露出するシリンダ錠 7 0 0 (図 1 等参照) を備えており、該シリンダ錠 7 0 0 の鍵穴に鍵を挿入し、一方に回転操作することで内枠 1 2 を解錠でき、他方に回転操作することで前面枠セット 1 4 を解錠できるようになっている。本実施形態では、内枠 1 2 は外枠 1 1 に対し施錠され、前面枠セット 1 4 は内枠 1 2 に対し施錠される。

【 0 1 3 4 】

尚、上記のように、外枠 1 1 の右辺枠構成部 1 1 d には、施錠装置 6 0 0 に対応する上下区間全域を内枠 1 2 の背面側から覆う延出壁部 8 3 が形成されている (図 5 参照) 。これにより、外枠 1 1 の背面側から線材等を進入させ、当該線材等により施錠装置 6 0 0 を操作することが困難となる。結果として、防御性能の向上を図ることができる。さらに、延出壁部 8 3 は、裏パックユニット 2 0 3 及び下枠セット 2 5 1 の右端部 (図 5 では左側の端部) を背面側から覆う構成となっており、内枠 1 2 の閉状態においては、裏パックユニット 2 0 3 及び下枠セット 2 5 1 を開放できない構成となっている。

【 0 1 3 5 】

また、図 4 に示すように、内枠 1 2 の前面側右下部 (発射装置 6 0 の右側) には、前面枠セット 1 4 の開放を検知するための前面枠開放検知スイッチ 9 1 が設けられ、図 5 に示すように、内枠 1 2 の背面側右下部 (図 5 では左下) には、内枠 1 2 の開放を検知するための内枠開放検知スイッチ 9 2 が設けられている。前面枠開放検知スイッチ 9 1 及び内枠開放検知スイッチ 9 2 は、それぞれスイッチ本体部に対して出沒可能な検知部を備えており、前面枠開放検知スイッチ 9 1 は検知部が前方に向くように設けられ、内枠開放検知スイッチ 9 2 は検知部が後方へ向くように設けられる。そして、検知部がスイッチ本体部から突出した状態にある場合にはオン信号を主制御装置 2 6 1 に出力し、検知部がスイッチ本体部側に押圧され、スイッチ本体部に没入した状態ではオフ信号を主制御装置 2 6 1 に出力する構成となっている。つまり、前面枠開放検知スイッチ 9 1 は前面枠セット 1 4 の

10

20

30

40

50

閉鎖時において検知部が前面枠セット１４の背面で押圧されてオフ状態となり、前面枠セット１４の開放時には、検知部が突出状態に戻ってオン状態となる。同様に、内枠開放検知スイッチ９２は内枠１２の閉鎖時において検知部が外枠１１の受部８５に一体形成された押圧部８６によって押圧されてオフ状態となり、内枠１２の開放時には検知部が突出状態に戻ってオン状態となる。

【０１３６】

次に、パチンコ機１０の電氣的構成について説明する。図１８は、本パチンコ機１０の電氣的構成を示すブロック図である。主制御装置２６１（主基板）には、演算装置である１チップマイコンとしてのＣＰＵ５０１が搭載されている。ＣＰＵ５０１には、該ＣＰＵ５０１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶したＲＯＭ５０２と、そのＲＯＭ５０２内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するメモリであるＲＡＭ５０３と、割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路等が内蔵されている。但し、ＣＰＵ、ＲＯＭ及びＲＡＭが１チップ化されておらず、それぞれの機能毎にチップ化されている構成であってもよい。

10

【０１３７】

ＲＡＭ５０３は、ＣＰＵ５０１の内部レジスタの内容やＣＰＵ５０１により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種フラグ及びカウンタ、Ｉ／Ｏ等の値が記憶される作業エリア（作業領域）と、バックアップエリア５０３ａとを備えている。

20

【０１３８】

また、ＲＡＭ５０３は、パチンコ機１０の電源のオフ後においても電源装置３１３からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、スタックエリア、作業エリア及びバックアップエリア５０３ａに記憶されるすべてのデータがバックアップされるようになっている。

【０１３９】

バックアップエリア５０３ａは、停電などの発生により電源が切断された場合において、電源の再入時にパチンコ機１０の状態を電源切断前の状態に復帰させるべく、電源切断時（停電発生時を含む。以下同様）のスタックポインタや、各レジスタ、Ｉ／Ｏ等の値を記憶しておくエリアである。バックアップエリア５０３ａへの書き込みは、メイン処理によって電源切断時に実行され、逆にバックアップエリア５０３ａに書き込まれた各値の復帰は、電源入時（停電解消による電源入を含む。以下同様）のメイン処理において実行される。なお、ＣＰＵ５０１のＮＭＩ端子（ノンマスカブル割込端子）には、停電等の発生による電源断時に、後述する停電監視回路５４２から出力される停電信号ＳＫ１が入力されるように構成されており、停電の発生により、停電処理（ＮＭＩ割込み処理）が即座に実行される。

30

【０１４０】

なお、少なくともスタックエリアとバックアップエリア５０３ａとに記憶されるデータをバックアップすれば、必ずしもすべてのエリアに記憶されるデータをバックアップする必要はない。例えば、スタックエリアとバックアップエリア５０３ａとに記憶されるデータをバックアップし、作業エリアに記憶されるデータをバックアップしない構成としてもよい。

40

【０１４１】

かかるＲＯＭ５０２及びＲＡＭ５０３を内蔵したＣＰＵ５０１には、アドレスバス及びデータバス等で構成されるバスライン５０４を介して入出力ポート５０５が接続されている。入出力ポート５０５には、後述するＲＡＭ消去スイッチ回路５４３、払出制御装置３１１、サブ制御装置２６２、第１及び第２特別表示装置４３Ｌ、４３Ｒ、普通図柄表示装置４１等が接続されている。この構成により、上述した特別表示装置４３Ｌ、４３Ｒ、及び普通図柄表示装置４１は、主制御装置２６１により直接的に制御される。一方、装飾図柄表示装置４２は、サブ制御装置２６２を介して制御される。

【０１４２】

50

その他、便宜上、各種中継基板等の図示は省略するが、入出力ポート 505 には、入賞口スイッチ 221、カウントスイッチ 223、始動入賞ユニットスイッチ 224a, 224b、スルーゲートスイッチ 225 などの各種検出スイッチや、各種基板などの各種電気部品が接続されている。つまり、主制御装置 261 には、各種ケーブルコネクタのコネクタを接続するための複数の端子部（基板側コネクタ）が設けられているが、これら端子部等により、入出力ポート 505 が構成される。

【0143】

サブ制御装置 262（サブ制御基板）は、演算装置である CPU 551、該 CPU 551 により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶した ROM 552、該 ROM 552 内に記憶される制御プログラムの実行に際して各種のデータ等を一時的に記憶するメモリである RAM 553、入出力ポート 554、バスライン 555 を備えるとともに、その他にも図示しない割込回路やタイマ回路、データ送受信回路などの各種回路等を備えている。RAM 553 は、CPU 551 による各種プログラムの実行時に使用されるワークデータやフラグを一時的に記憶するメモリである。

10

【0144】

入出力ポート 554 には、バスライン 555 を介して CPU 551、ROM 552、RAM 553 が接続されるとともに、表示制御装置 45 が接続されている。さらに、入出力ポート 554 には、スピーカ SP、演出ボタン 125、上部役物ユニット 761、下部役物ユニット 762、各種電飾部及びランプ 102 ~ 104 が接続されている。

20

【0145】

サブ制御装置 262 の CPU 551 は、例えば主制御装置 261 から送信されるコマンド（例えば変動パターンコマンド）に基づいて表示制御装置 45 に表示制御を実行させ、装飾図柄表示装置 42 に表示させる。なお、上記のように、本実施形態では、主制御装置 261 が制御する第 1 及び第 2 特別表示装置 43L、43R にて大当たりか否かを表示するようになっており、サブ制御装置 262 が制御する装飾図柄表示装置 42 では、前記特別表示装置 43L、43R の表示に合わせた表示が行われる。

【0146】

また、サブ制御装置 262 は、上部役物ユニット 761 や下部役物ユニット 762 の駆動制御を行う。

【0147】

また、払出制御装置 311 は、払出装 358 により賞球や貸し球の払出制御を行うものである。演算装置である CPU 511 は、その CPU 511 により実行される制御プログラムや固定値データ等を記憶した ROM 512 と、ワークメモリ等として使用される RAM 513 とを備えている。

30

【0148】

払出制御装置 311 の RAM 513 は、主制御装置 261 の RAM 503 と同様に、CPU 511 の内部レジスタの内容や CPU 511 により実行される制御プログラムの戻り先番地などが記憶されるスタックエリアと、各種フラグ及びカウンタ、I/O 等の値が記憶される作業エリア（作業領域）と、バックアップエリア 513a とを備えている。

【0149】

RAM 513 は、パチンコ機 10 の電源のオフ後においても電源装置 313 からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）できる構成となっており、スタックエリア、作業エリア及びバックアップエリア 513a に記憶されるすべてのデータがバックアップされるようになっている。なお、少なくともスタックエリアとバックアップエリア 513a とに記憶されるデータをバックアップすれば、必ずしもすべてのエリアに記憶されるデータをバックアップする必要はない。例えば、スタックエリアとバックアップエリア 513a とに記憶されるデータをバックアップし、作業エリアに記憶されるデータをバックアップしない構成としてもよい。

40

【0150】

バックアップエリア 513a は、停電などの発生により電源が切断された場合において

50

、電源の再入時にパチンコ機 10 の状態を電源切断前の状態に復帰させるべく、電源切断時のスタックポインタや、各レジスタ、I/O等の値を記憶しておくエリアである。このバックアップエリア 513a への書き込みは、メイン処理によって電源切断時に実行され、バックアップエリア 513a に書き込まれた各値の復帰は電源入時のメイン処理において実行される。なお、主制御装置 261 の CPU 501 と同様、CPU 511 の NMI 端子にも、停電等の発生による電源遮断時に停電監視回路 542 から停電信号 SK1 が入力されるように構成されており、その停電信号 SK1 が CPU 511 へ入力されると、停電時処理としての NMI 割込み処理が即座に実行される。

【0151】

作業エリアには、払出制御装置 311 による賞球の払出許可が設定される払出許可フラグと、主制御装置 261 から送信されたコマンドを受信した場合に設定されるコマンド受信フラグと、主制御装置 261 から送信されたコマンドが記憶されるコマンドバッファとが設けられている。

【0152】

払出許可フラグは、賞球の払出許可を設定するフラグであり、主制御装置 261 から賞球の払出を許可する特定のコマンドが送信され、その特定のコマンドを受信した場合にオンされ、初期設定の処理又は電源遮断前へ復帰された場合にオフされる。本実施形態では、特定のコマンドは、払出制御装置 311 の RAM 513 の初期処理の指示をする払出初期化コマンドと、賞球の払出を指示する賞球コマンドと、主制御装置 261 が復電された場合に送信される払出復帰コマンドの 3 つである。

【0153】

コマンド受信フラグは、払出制御装置 311 がコマンドを受信したか否かを確認するフラグであり、いずれかのコマンドを受信した場合にオンされ、払出許可フラグと同様に、初期設定の処理又は電源遮断前へ復帰された場合にオフされるとともに、コマンド判定処理により受信されたコマンドの判定が行われた場合にオフされる。

【0154】

コマンドバッファは、主制御装置 261 から送信されるコマンドを一時的に記憶するリングバッファで構成されている。

【0155】

かかる ROM 512 及び RAM 513 を内蔵した CPU 511 には、アドレスバス及びデータバスで構成されるバスライン 514 を介して入出力ポート 515 が接続されている。入出力ポート 515 には、RAM 消去スイッチ回路 543、主制御装置 261、発射制御装置 312、払出装置 358 等がそれぞれ接続されている。

【0156】

カードユニット接続基板 314 は、パチンコ機 10 前面の貸球操作部（球貸しボタン 121 及び返却ボタン 122）と、遊技ホール等にてパチンコ機 10 の側方に配置されるカードユニット（球貸しユニット）とにそれぞれ電気的に接続され、遊技者による球貸し操作の指令を取り込んでそれをカードユニットに出力するものである。なお、カードユニットを介さずに球貸し装置等から上皿 19 に遊技球 B が直接貸し出される現金機では、カードユニット接続基板 314 を省略することも可能である。

【0157】

発射制御装置 312 は、発射装置 60 による遊技球 B の発射を許可又は禁止するものであり、発射装置 60 は、所定条件が整っている場合に駆動が許可される。具体的には、払出制御装置 311 から発射許可信号が出力されていること、遊技者がハンドル 18 をタッチしていることをセンサ信号により検出していること、発射を停止させる発射停止スイッチが操作されていないことを条件に、発射装置 60 が駆動され、ハンドル 18 の操作量に応じた強度で遊技球 B が発射される。

【0158】

表示制御装置 45 は、サブ制御装置 262 からの指示に従い、装飾図柄表示装置 42 における装飾図柄の変動表示を実行するものである。この表示制御装置 45 は、CPU 52

10

20

30

40

50

１と、プログラムＲＯＭ５２２と、ワークＲＡＭ５２３と、ビデオＲＡＭ５２４と、キャラクタＲＯＭ５２５と、ビデオディスプレイプロセッサ（ＶＤＰ）５２６と、入力ポート５２７と、出力ポート５２９と、バスライン５３０，５３１とを備えている。入力ポート５２７にはサブ制御装置２６２の入出力ポート５５４が接続されている。また、入力ポート５２７には、バスライン５３０を介して、ＣＰＵ５２１、プログラムＲＯＭ５２２、ワークＲＡＭ５２３、ＶＤＰ５２６が接続されている。また、ＶＤＰ５２６にはバスライン５３１を介して出力ポート５２９が接続されており、その出力ポート５２９には液晶表示装置たる装飾図柄表示装置４２が接続されている。

【０１５９】

表示制御装置４５のＣＰＵ５２１は、サブ制御装置２６２から送信される表示コマンドを、入力ポート５２７を介して受信するとともに、受信コマンドを解析し又は受信コマンドに基づき所定の演算処理を行ってＶＤＰ５２６の制御（具体的にはＶＤＰ５２６に対する内部コマンドの生成）を実施する。これにより、装飾図柄表示装置４２における表示制御を行う。

【０１６０】

プログラムＲＯＭ５２２は、そのＣＰＵ５２１により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶するメモリであり、ワークＲＡＭ５２３は、ＣＰＵ５２１による各種プログラムの実行時に使用されるワークデータやフラグを一時的に記憶するメモリである。

【０１６１】

ビデオＲＡＭ５２４は、装飾図柄表示装置４２に表示される表示データを記憶するメモリであり、このビデオＲＡＭ５２４の内容を書き替えることにより、装飾図柄表示装置４２の表示内容が変更される。キャラクタＲＯＭ５２５は、装飾図柄表示装置４２に表示される図柄などのキャラクタデータを記憶するメモリである。

【０１６２】

ＶＤＰ５２６は、装飾図柄表示装置４２に組み込まれたＬＣＤドライバ（液晶駆動回路）を直接操作する一種の描画回路である。ＶＤＰ５２６はＩＣチップ化されているため「描画チップ」とも呼ばれ、その実体は、描画処理専用のファームウェアを内蔵したマイコンチップとでも言うべきものである。ＶＤＰ５２６は、ＣＰＵ５２１、ビデオＲＡＭ５２４等のそれぞれのタイミングを調整してデータの読み書きに介在するとともに、ビデオＲＡＭ５２４に記憶される表示データを所定のタイミングで読み出して装飾図柄表示装置４２に表示させる。

【０１６３】

また、電源装置３１３は、パチンコ機１０の各部に電力を供給する電源部５４１と、停電等による電源遮断を監視する停電監視回路５４２と、ＲＡＭ消去スイッチ３２３に接続されてなるＲＡＭ消去スイッチ回路５４３とを備えている。

【０１６４】

電源部５４１は、図示しない電源経路を通じて、主制御装置２６１や払出制御装置３１１等に対して各々に必要な動作電源を供給する。その概要としては、電源部５４１は、外部より供給される交流２４ボルト電源を取り込み、各種スイッチやモータ等を駆動する＋１２Ｖ電源、ロジック用の＋５Ｖ電源、ＲＡＭバックアップ用のバックアップ電源などを生成し、これら＋１２Ｖ電源、＋５Ｖ電源及びバックアップ電源を主制御装置２６１や払出制御装置３１１等に対して供給する。なお、発射制御装置３１２に対しては払出制御装置３１１を介して動作電源（＋１２Ｖ電源、＋５Ｖ電源等）が供給される。同様に、各種スイッチやモータ等には、これらが接続される制御装置を介して動作電源が供給されることとなる。

【０１６５】

停電監視回路５４２は、停電等の発生による電源断時に、主制御装置２６１のＣＰＵ５０１及び払出制御装置３１１のＣＰＵ５１１の各ＮＭＩ端子へ停電信号ＳＫ１を出力する回路である。停電監視回路５４２は、電源部５４１から出力される最大電圧である直流安

10

20

30

40

50

定 2 4 ボルトの電圧を監視し、この電圧が 2 2 ボルト未満になった場合に停電（電源断）の発生と判断して、停電信号 S K 1 を主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 へ出力する。この停電信号 S K 1 の出力によって、主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 は、停電の発生を認識し、停電時処理（N M I 割込み処理）を実行する。

【 0 1 6 6 】

なお、電源部 5 4 1 は、直流安定 2 4 ボルトの電圧が 2 2 ボルト未満になった後においても、かかる停電時処理の実行に十分な時間の間、制御系の駆動電圧である 5 ボルトの出力を正常値に維持するように構成されている。よって、主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 は、停電時処理を正常に実行し完了することができる。

【 0 1 6 7 】

10

R A M 消去スイッチ回路 5 4 3 は、R A M 消去スイッチ 3 2 3 のスイッチ信号を取り込み、そのスイッチ 3 2 3 の状態に応じて主制御装置 2 6 1 の R A M 5 0 3 及び払出制御装置 3 1 1 の R A M 5 1 3 のバックアップデータをクリアする回路である。R A M 消去スイッチ 3 2 3 が押下された際、R A M 消去スイッチ回路 5 4 3 は、R A M 消去信号 S K 2 を主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 に出力する。R A M 消去スイッチ 3 2 3 が押下された状態でパチンコ機 1 0 の電源が投入されると（停電解消による電源入を含む）、主制御装置 2 6 1 及び払出制御装置 3 1 1 においてそれぞれの R A M 5 0 3 , 5 1 3 のデータがクリアされる。

【 0 1 6 8 】

ここで、上部役物ユニット 7 6 1 の駆動制御等に関連して、サブ制御装置 2 6 2 にて行われる通常処理について図 1 9 のフローチャートを参照して説明する。この通常処理は、定期的に（本実施形態では 4 m s e c 周期で）起動される。

20

【 0 1 6 9 】

先ずステップ S 1 0 0 1 では、前回の処理で更新された設定内容に基づいた制御信号を各装置に送信する外部出力処理を実行する。例えば、装飾図柄表示装置 4 2 による装飾図柄の変動表示に際して表示コマンドを表示制御装置 4 5 に送信したり、上部役物ユニット 7 6 1 に対し制御信号を送信する。

【 0 1 7 0 】

ステップ S 1 0 0 2 では、主制御装置 2 6 1 から送信されたコマンドが受信されたか否かを判別する。そして、コマンドが受信されている場合には、ステップ S 1 0 0 3 においてそのコマンドを R A M 5 5 3 のコマンドバッファへ記憶する。一方、コマンドが受信されていない場合には、そのままステップ S 1 0 0 4 へ移行する。

30

【 0 1 7 1 】

そして、主制御装置 2 6 1 からコマンドを受信すると、そのコマンドに応じた各種設定処理を行うこととなる。

【 0 1 7 2 】

ステップ S 1 0 0 4 の表示演出設定処理では、例えば R A M 5 5 3 のコマンドバッファに格納された情報に基づき、表示制御装置 4 5 へ出力する表示コマンドを生成する等の各種の演算処理及びコマンドの出力設定を行う。ここで装飾図柄表示装置 4 2 において表示する表示態様が決定され、変動パターンコマンドの変動時間に対応する値が変動時間計測タイマに設定される。この際、サブ制御装置 2 6 2 は、装飾図柄の変動種別と変動パターンコマンドとを対応付けるテーブルに基づいて処理を行う。

40

【 0 1 7 3 】

続くステップ S 1 0 0 5 の上部役物設定処理では、上部役物ユニット 7 6 1 を駆動制御するための設定処理を行う。例えば、上部役物ユニット 7 6 1 は、装飾図柄表示装置 4 2 において特定のリーチ演出が行われる場合に作動する。

【 0 1 7 4 】

ここで、上部役物設定処理について図 2 0 のフローチャートを参照して詳しく説明する。

【 0 1 7 5 】

50

ステップS 2 1 0 1では、上部役物ユニット7 6 1の作動の有無を判別する。ここで上部役物ユニット7 6 1を作動させる旨の判別結果が得られた場合、すなわち特定のリーチ演出が行われる場合には、ステップS 2 1 0 2へ移行する。一方、上部役物ユニット7 6 1を作動させない旨の判別結果が得られた場合には、そのまま本処理を終了する。

【0 1 7 6】

ステップS 2 1 0 2では、装飾図柄表示装置4 2の演出パターン（演出態様）に合わせて、シャッタ片8 1 1，8 1 2や人面役物8 0 4、メガネ役物8 0 5等の動作パターンを決定する。本実施形態では、シャッタ片8 1 1，8 1 2の動作パターンが複数設定されている。例えば、シャッタ片8 1 1，8 1 2が全開状態となる全開パターンや、シャッタ片8 1 1，8 1 2が閉鎖状態のまま一体となって振動する振動パターン等が設定されている。これらの動作パターンは、駆動モータ8 3 1，8 3 2への駆動パルスを入力パターンとして予めテーブルにより記憶されている。従って、装飾図柄表示装置4 2の演出パターンに対応した所定の動作パターンを決定する際には、当該所定の動作パターンに対応する動作パターンテーブルを抽出して、これをRAM 5 3のテーブル格納エリアに格納する。

10

【0 1 7 7】

また、シャッタ片8 1 1，8 1 2の動作パターンと組合せるようにして、人面役物8 0 4やメガネ役物8 0 5等の動作パターンも各種設定されている。例えば、メガネ役物8 0 5が上方へ持ち上がる動作パターンや、人面役物8 0 4の目8 0 4 aが光る動作パターンなどが行われる。

20

【0 1 7 8】

ステップS 2 1 0 3では、シャッタ片8 1 1，8 1 2の位置を検出する。シャッタ片8 1 1，8 1 2の位置検出は、センサ8 3 7，8 3 8からの検出信号の受信の有無を監視し、支持片8 1 3，8 1 4の遮光部8 3 9，8 4 0が検出されたか否かを確認することにより行われる。支持片8 1 3，8 1 4の位置を検出することにより、シャッタ片8 1 1，8 1 2がどのような状態にあるか把握することができる。例えば、センサ8 3 7，8 3 8により遮光部8 3 9，8 4 0が検出されることにより、シャッタ片8 1 1，8 1 2（支持片8 1 3，8 1 4）の基準位置にあり、シャッタ片8 1 1，8 1 2が閉鎖状態にあると判断できる。

【0 1 7 9】

なお、本実施形態では、動作パターンテーブルに基づいてシャッタ片8 1 1，8 1 2の動作制御を行っているため、予め基準位置さえ把握できていれば駆動モータ8 3 1，8 3 2へ入力される駆動パルス数を監視することによって、シャッタ片8 1 1，8 1 2の駆動量（位置）を把握し、シャッタ片8 1 1，8 1 2を所定の状態で停止させるなど駆動制御可能であるが、何らかの不具合が発生して、実際のシャッタ片8 1 1，8 1 2の位置と、サブ制御装置2 6 2が把握している位置とにズレが生じてしまった場合などにおいて、センサ8 3 7，8 3 8からの検出信号に基づいて位置補正することができる。

30

【0 1 8 0】

ステップS 2 1 0 4では、ステップS 2 1 0 2にて設定したシャッタ片8 1 1，8 1 2等の動作パターンテーブルの内容に基づき、上記変動時間タイマを基に予め決められた時間順序に則して、駆動モータ8 3 1，8 3 2に対し順次駆動パルスを出力するための設定を行う。その後、本処理を終了する。

40

【0 1 8 1】

この駆動パルスの出力設定処理に基づき、ステップS 1 0 0 1の外部出力処理において駆動モータ8 3 1，8 3 2に対し順次駆動パルスが出力されることにより、上部役物ユニット7 6 1が動作する。

【0 1 8 2】

図1 9の説明に戻り、ステップS 1 0 0 6の下部役物設定処理では、下部役物ユニット7 6 2を駆動制御するための設定処理を行う。例えば、下部役物ユニット7 6 2に関しては、始動入賞ユニット3 3への遊技球Bの入賞や、所定の演出条件の成立に応じて演出ボタン1 2 5を押圧操作すること等を契機として、通常時、下方位置に待機している可動部

50

材 7 6 2 a が上方位置にスライド変位して、演出領域 7 5 4 に現われるといった演出が行われる。

【 0 1 8 3 】

続くステップ S 1 0 0 7 では、音声類、ランプ類を駆動するための制御設定を行い、本処理を終了する。サブ制御装置 2 6 2 は、その都度の表示演出に同期させながら、ランプの点灯パターンや音声出力パターンなど、音声類、ランプ類を駆動するための制御設定を行う。

【 0 1 8 4 】

そして、表示制御装置 4 5 は、サブ制御装置 2 6 2 からの指令に応じて描画処理を行い、装飾図柄表示装置 4 2 での図柄の変動表示を開始する。なお、主制御装置 2 6 1 から変動パターンコマンドが一旦受信されると、当該変動パターンに対応する変動時間が経過するまで（ステップ S 1 0 0 4 で設定された変動時間タイマが 0 になるまで）の間、サブ制御装置 2 6 2 と表示制御装置 4 5 との協働のもとに図柄の変動表示が継続される。また、上部役物ユニット 7 6 1 等が作動する場合には、変動表示に合わせて上部役物ユニット 7 6 1 も作動する。

【 0 1 8 5 】

以上詳述したように、本実施形態によれば、上部役物ユニット 7 6 1 において、一对のシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 を開閉する演出が行われる。上下方向にスライドする一对のシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 のうち下シャッタ片 8 1 2 と、これに対応する下支持片 8 1 4 との間には、当該下シャッタ片 8 1 2 を上方へ付勢するコイルばね 8 1 5 が設けられている。

【 0 1 8 6 】

このコイルばね 8 1 5 により、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の閉鎖時の衝撃を緩和することができる。これにより、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 自体は勿論のこと、ピニオン歯車 8 3 1 a , 8 3 2 a とラック部 8 3 3 , 8 3 4 との噛合部位などにかかる負荷を軽減し、上部役物ユニット 7 6 1 の駆動機構の組付け状態にガタツキが生じるなどの不具合の発生を抑制することができ、ひいては耐久性の低下抑制を図ることができる。

【 0 1 8 7 】

また、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が上下動する機構においては、下シャッタ片 8 1 2 の自重や、ピニオン歯車 8 3 1 a , 8 3 2 a とラック部 8 3 3 , 8 3 4 との噛合部位などに設けた遊び等により、当接する上下両シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 間には隙間が生じやすい。

【 0 1 8 8 】

シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 は、遊技演出に係る人面役物 8 0 4 等を遮蔽するものであり、遊技者が注視する部位である。このため、本来、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が完全に閉鎖されるべき時に両者間に隙間が生じ、内側の人面役物 8 0 4 が見えてしまうと、遊技者にとっての興味が著しく低下するおそれがある。

【 0 1 8 9 】

この点、本実施形態では、コイルばね 8 1 5 により、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の閉鎖時の衝撃吸収機能は勿論のこと、閉鎖継続中においても隙間を生じにくくするといった作用効果が奏される。さらには、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の製造誤差や組付け緩み、共同動作時における 2 つの駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 の動作ズレ等をも吸収でき、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 間における隙間等の発生をより確実に抑制することができる。

【 0 1 9 0 】

なお、上述した実施形態の記載内容に限定されず、例えば次のように実施してもよい。

【 0 1 9 1 】

(a) 上記実施形態では、緩衝手段、付勢手段、弾性手段を構成する部材として、コイルばね 8 1 5 を採用しているが、これに限定されるものではない。例えば、板バネ等を採用してもよい。

【 0 1 9 2 】

また、上シャッタ片 8 1 1 に緩衝手段を備える場合には、上支持片 8 1 3 に上下方向に長い長穴を設け、上シャッタ片 8 1 1 にこれに係合するピンを設けて、両者を相対変位可能に組付けた構成とすれば、長穴にできる遊び部分が緩衝手段として機能し、上下シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が衝突した際の衝撃を吸収することができる。また、このような構成が付勢手段として機能し、通常時は、上シャッタ片 8 1 1 が自重により、下方の下シャッタ片 8 1 2 に付勢された状態となるため、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 間に隙間が生じにくくなる。さらに、この態で、下シャッタ片 8 1 2 のみを上下動させることにより、上記実施形態と同様に、上下両シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が閉鎖状態のまま振動する動作態様を実現できる。

【 0 1 9 3 】

10

(b) 上記実施形態では、下シャッタ片 8 1 2 にのみ対応してコイルばね 8 1 5 が設けられているが、これに代えて又は加えて、上シャッタ片 8 1 1 に対応してコイルばねを設けた構成としてもよい。

【 0 1 9 4 】

(c) シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の駆動機構は上記実施形態に限定されるものではない。

【 0 1 9 5 】

例えば、上記実施形態では、駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 からの動力をラックアンドピニオン機構によりシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 へ伝達する構成となっているが、これに限らず、例えばタイミングベルト等を介して動力伝達する構成としてもよい。

20

【 0 1 9 6 】

(d) 上記実施形態では、駆動モータ 8 3 1 , 8 3 2 (支持片 8 1 3 , 8 1 4) により直接駆動されるシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 のみが設けられた構成であるが、これに限らず、例えばこれらのシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 に従動 (連動) して動く第 2 の開閉部材を備えた構成としてもよい。ここでいう「従動」とは、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 のように支持片 8 1 3 , 8 1 4 から動力伝達を直接受けることなく、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 からの作用を受けることにより、又は当該シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 から作用を受けた部材を介して作用を受けることにより動作することを意味している。

【 0 1 9 7 】

(e) 上記実施形態では、サブ制御装置 2 6 2 によってシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の制御が行われる構成となっているが、これに限らず、主制御装置 2 6 1 など他の制御装置により制御される構成としてもよい。

30

【 0 1 9 8 】

(f) 上記実施形態では、2つのシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 が上下方向にスライド変位する構成となっているが、シャッタ片 (開閉部材) の構成や動作態様はこれに限定されるものではない。例えば、以下の示す種々の構成例が挙げられる。

【 0 1 9 9 】

2つのシャッタ片が左右方向にスライド変位する構成としてもよい。所定の開口部を1つのシャッタ片により開閉する構成としてもよい。スライド変位ではなく、複数のシャッタ片が閉鎖位置と開放位置とに回動変位する構成としてもよい。所定の開口部の周囲に3つ以上のシャッタ片が配置され、これらシャッタ片が開口部内に突出し互いに当接して閉鎖状態となり、各シャッタ片が離間して開放状態となる構成としてもよい。

40

【 0 2 0 0 】

(g) シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の動作態様は、上記実施形態に例示したものに限定されず、例えばシャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の一方だけを開閉動作させる動作パターンを行ってもよいし、動作範囲内の任意の位置にて停止させたり、動作速度を変化させるような動作パターンを行ってもよい。

【 0 2 0 1 】

(h) 上記実施形態では、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 により、所定の対象物として人面役物 8 0 4 を遮蔽する構成となっているが、遮蔽する対象物はこれに限定されるものでは

50

ない。例えば、装飾図柄表示装置 4 2 等の表示手段や、L E D 等の発光手段など他の対象物を遮蔽する構成であってもよい。また、遮蔽する領域も対象物全体ではなく、その一部を遮蔽する構成としてもよい。

【 0 2 0 2 】

例えば、装飾図柄表示装置 4 2 の液晶表示部 4 2 a を遮蔽可能な開閉部材を設けるとともに、装飾図柄表示装置 4 2 にて行われる特定の演出に合わせて、当該開閉部材を閉鎖する演出を行ってもよい。具体例としては、リーチ演出をノーマルリーチからスーパーリーチへ発展させる演出に絡めて、開閉部材が液晶表示部 4 2 a を閉鎖して当該発展演出を終了させようとする演出を行うとともに、これに対抗して、当該閉じようとする開閉部材を、遊技者が演出ボタン 1 2 5 を連打することにより、くい止めるような演出を行う構成などが挙げられる。このような構成においては、演出上の観点から、遊技者が演出ボタン 1 2 5 を連打するのを止めた場合などにおいて、開閉部材を急に閉鎖する等しなければならない。そのため、閉鎖時の衝撃が大きくなるおそれがあり、本願の構成がより奏効することとなる。

10

【 0 2 0 3 】

また、上記実施形態では、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 の材質について特に言及しなかったが、シャッタ片 8 1 1 , 8 1 2 は、例えば背後の対象が透けて見えるような透光性を有したものであってもよい。

【 0 2 0 4 】

(i) 上記実施形態とは異なるタイプのパチンコ機として実施してもよい。また、パチンコ機以外にも、アレンジボール機、それに類する雀球等の各種遊技機などとして実施してもよい。さらに、パチンコ機以外の遊技機として、回胴式遊技機としてのスロットマシンや、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機としても、もちろん実施可能である。

20

【 0 2 0 5 】

以下、特許請求の範囲の請求項に記載されないものであって、上記実施形態から把握できる技術的思想について、その効果とともに記載する。

【 0 2 0 6 】

手段 1 . 所定条件が成立した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態を発生させる遊技機であって、

30

所定部位に当接する閉鎖位置と、前記所定部位から離間する開放位置との間で動作する開閉部材と、

前記開閉部材を駆動させる駆動手段と、

前記駆動手段から前記開閉部材に動力を伝達する駆動伝達部材とを備えるとともに、

前記駆動伝達部材と前記開閉部材との間に、当該開閉部材の閉鎖時の衝撃を吸収する緩衝手段を介在させたことを特徴とする遊技機。

【 0 2 0 7 】

上記手段 1 によれば、緩衝手段により開閉部材の閉鎖時の衝撃を緩和することができる。これにより、開閉部材自体は勿論のこと、これを動かす駆動手段との連結部位などにかかる負荷を軽減することができ、耐久性の低下抑制を図ることができる。

40

【 0 2 0 8 】

なお、所定部位と当接する開閉部材の当接部（端縁部）に例えばゴム等の緩衝手段を直接設けることも考えられるが、開閉部材本体との材質の違いが生じる等して、見映えが悪くなるおそれがある。開閉部材は、一般に遊技機の演出に係る部分等に用いられるものであり、遊技者が注視する部位であるため、このように見映えが悪くなると、遊技者にとっての興味が低下するおそれがある。本手段では、そのような不具合の発生を抑制することができる。

【 0 2 0 9 】

加えて、開閉部材の閉鎖速度を比較的速くしても、その衝撃を吸収することが可能となるため、演出態様の多様化等を図ることができる。

50

【 0 2 1 0 】

手段 2 . 所定条件が成立した場合に、遊技者にとって有利な特別遊技状態を発生させる遊技機であって、

互いの端部が当接する閉鎖位置と、互いの端部が離間した開放位置との間で動作する複数の開閉部材と、

前記開閉部材を駆動させる駆動手段と、

前記駆動手段から前記各開閉部材に動力を伝達する複数の駆動伝達部材とを備えるとともに、

前記開閉部材のうち少なくとも 1 つとこれに対応する前記駆動伝達部材との間に、当該開閉部材の閉鎖時の衝撃を吸収する緩衝手段を介在させたことを特徴とする遊技機。

10

【 0 2 1 1 】

上記手段 2 によれば、上記手段 1 と同様の作用効果が奏される。

【 0 2 1 2 】

手段 3 . 前記複数の開閉部材は、上下方向に摺動する一対の開閉部材であって、

前記上下一対の開閉部材のうち少なくとも下側の開閉部材と、これに対応する前記駆動伝達部材との間に、前記緩衝手段として当該開閉部材を上方へ付勢する付勢手段（弾性手段）を介在させたことを特徴とする手段 2 に記載の遊技機。

【 0 2 1 3 】

開閉部材が上下動する構成の場合、開閉部材の自重や、駆動手段との連結箇所における遊び等により、当接する上下両開閉部材間に隙間が生じやすい。特に使用期間が長くなるほどこのような不具合が発生しやすい。これに対し、本手段によれば、衝撃吸収機能は勿論のこと、閉鎖継続中においても隙間を生じにくくするといった作用効果が奏される。

20

【 0 2 1 4 】

手段 4 . 前記緩衝手段は、前記開閉部材を閉鎖方向へ付勢する付勢手段（弾性手段）であることを特徴とする手段 1 又は 2 に記載の遊技機。

【 0 2 1 5 】

上記手段 4 によれば、開閉部材と当接部位との間に隙間が生じたり、開閉部材と駆動手段との組付け状態にガタツキが生じるなどの不具合の発生を抑制することができる。さらには、開閉部材の製造誤差や組付け緩み等をも吸収でき、隙間等の発生をより確実に抑制することができる。上述したように開閉部材は、遊技者が注視する部位であるため、上記のように隙間が生じると、遊技者にとっての興味が低下するおそれがある。本手段では、そのような不具合の発生を抑制することができる。

30

【 0 2 1 6 】

手段 5 . 前記開閉部材は、所定の対象物の少なくとも一部を遮蔽可能に設けられていることを特徴とする手段 3 又は 4 に記載の遊技機。

【 0 2 1 7 】

開閉部材の閉鎖時に隙間等が生じ、演出に係る対象物が見えてしまうと、遊技者にとっての興味が著しく低下するおそれがある。従って、このような構成において、上記付勢手段を備えることは特段の作用効果を奏することとなる。

【 0 2 1 8 】

以下に、上記各手段が適用される各種遊技機の基本構成を示す。

40

【 0 2 1 9 】

A . 上記各手段における前記遊技機は弾球遊技機であること。より詳しい態様例としては、「遊技者が操作する操作手段（遊技球発射ハンドル）と、当該操作手段の操作に基づいて遊技球を弾いて発射する発射手段（発射モータ等）と、当該発射された遊技球が案内される遊技領域と、前記遊技領域内に配置された入球手段（一般入賞口、可変入賞装置、作動口等）とを備えた弾球遊技機」が挙げられる。

【 0 2 2 0 】

B . 上記各手段における前記遊技機は略鉛直方向に延びる遊技領域を備えた弾球遊技機であること。より詳しい態様例としては、「遊技者が操作する操作手段（遊技球発射ハン

50

ドル)と、当該操作手段の操作に基づいて遊技球を弾いて発射する発射手段(発射モータ等)と、当該発射された遊技球が案内され、略鉛直方向に沿って延びる所定の遊技領域(例えば遊技領域は遊技盤面等により構成される)と、前記遊技領域内に配置された入球手段(一般入賞口、可変入賞装置、作動口等)とを備え、前記遊技領域を流下する遊技球の挙動を視認可能に構成されてなる弾球遊技機」が挙げられる。

【0221】

C. 上記各手段における前記遊技機、又は、上記各弾球遊技機は、パチンコ機又はパチンコ機に準ずる遊技機であること。

【0222】

D. 上記各手段における遊技機は、スロットマシン等の回胴式遊技機であること。より詳しい態様例としては、「複数の識別情報(図柄)からなる識別情報列(図柄列;具体的には図柄の付されたリール、ベルト等の回転体)を変動表示(具体的にはリール等の回転)した後に識別情報列を停止表示する表示手段(具体的にはリールユニット等の回転体ユニット)を備え、始動用操作手段(具体的にはスタートレバー)の操作に起因して識別情報(図柄)の変動が開始され、停止用操作手段(具体的にはストップボタン)の操作に起因して識別情報(図柄)の変動が停止され、その停止時に有効ライン上に揃った識別情報が特定の識別情報であることを条件に遊技価値が付与されるよう構成した回胴式遊技機」が挙げられる。

10

【0223】

E. 上記各手段における遊技機は、スロットマシンとパチンコ機とを融合した形式の遊技機(特に遊技球を遊技媒体として使用するスロットマシン仕様の遊技機)であること。より詳しい態様例としては、「複数の識別情報(図柄)からなる識別情報列(図柄列;具体的には図柄の付されたリール、ベルト等の回転体)を変動表示(具体的にはリール等の回転)した後に識別情報列を停止表示する表示手段(具体的にはリールユニット等の回転体ユニット)を備え、始動用操作手段(具体的にはスタートレバー)の操作に起因して識別情報(図柄)の変動が開始され、停止用操作手段(具体的にはストップボタン)の操作に起因して識別情報(図柄)の変動が停止され、その停止時に有効ライン上に揃った識別情報が特定の識別情報であることを条件に遊技価値が付与されるよう構成し、さらに球受皿(上皿等)を設けてその球受皿から遊技球を取り込む取込手段と、前記球受皿に遊技球の払出しを行う払出手段とを備え、前記取込手段により遊技球が取り込まれることにより遊技の開始条件が成立するように構成した遊技機」が挙げられる。

20

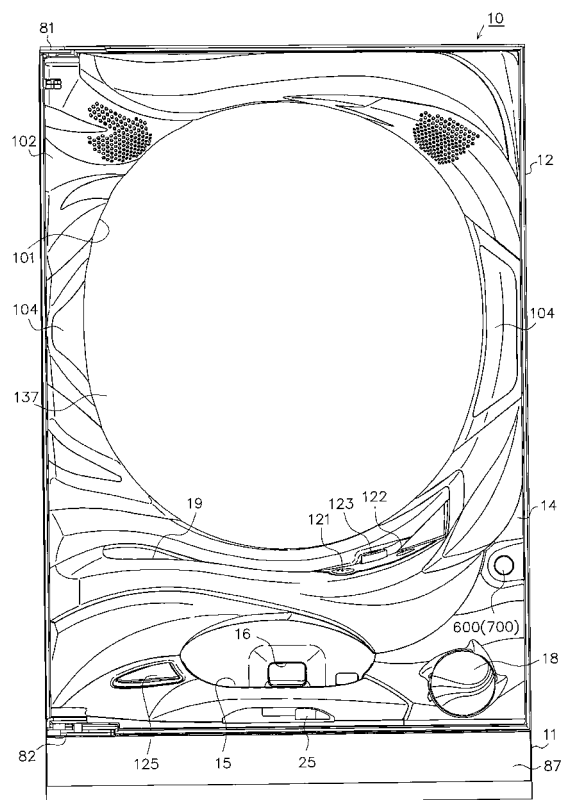
30

【符号の説明】

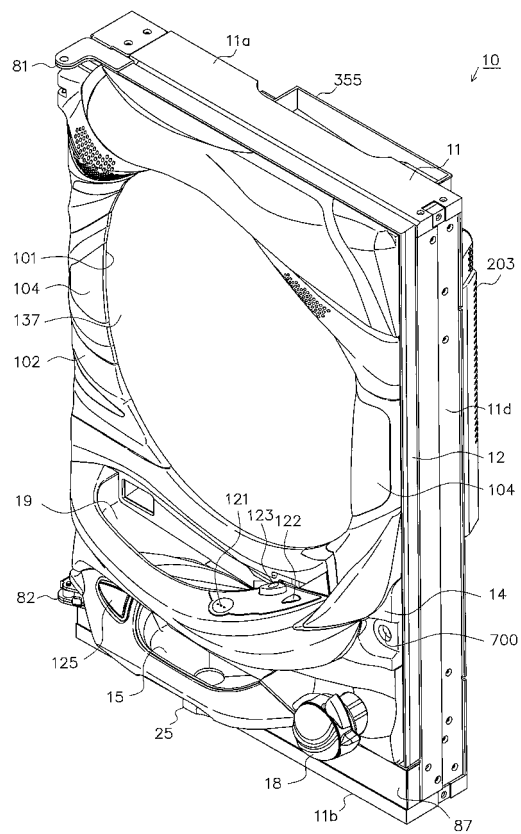
【0224】

10...パチンコ機、35...可変表示装置ユニット、42...装飾図柄表示装置、47...センターフレーム、761...上部役物ユニット、763...窓部、804...人面役物、805...メガネ役物、811, 812...シャッタ片、813, 814...支持片、815...コイルばね、831, 832...駆動モータ。

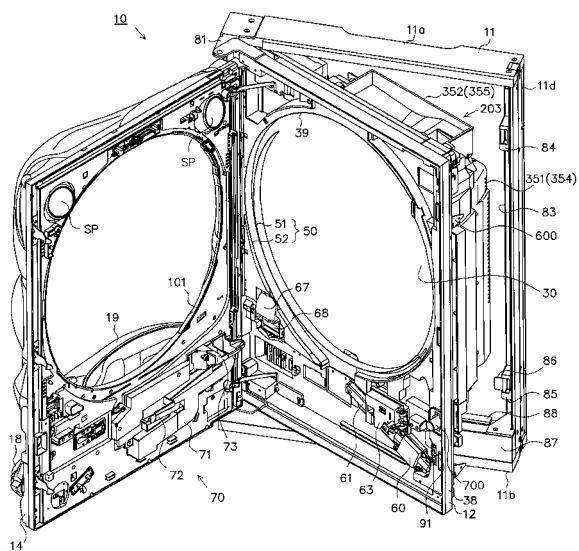
【 図 1 】



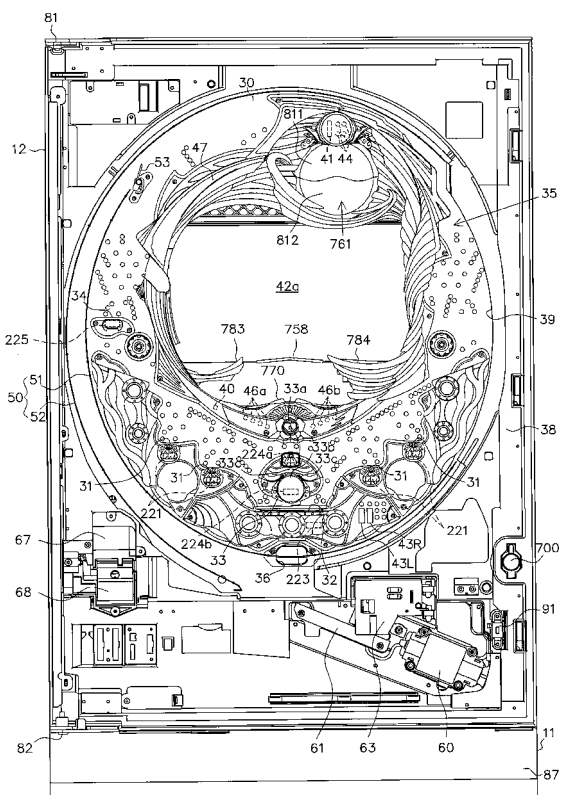
【圖 2】



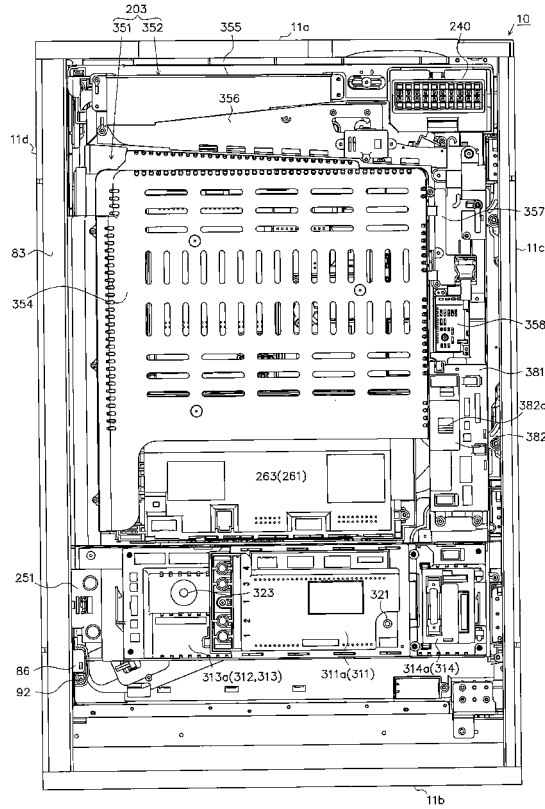
【 図 3 】



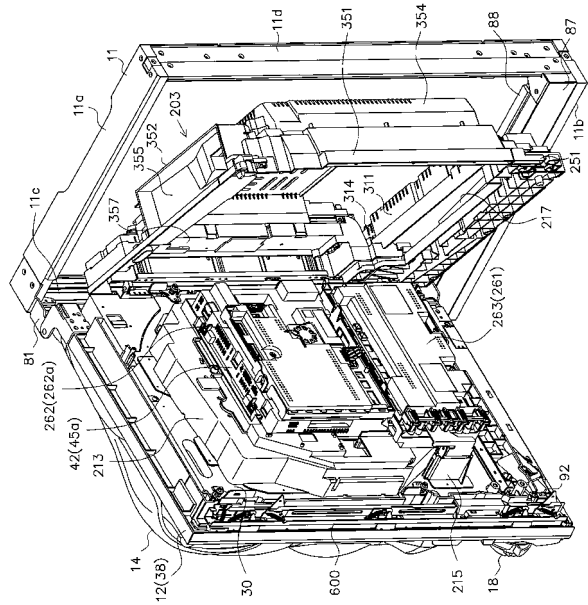
【圖 4】



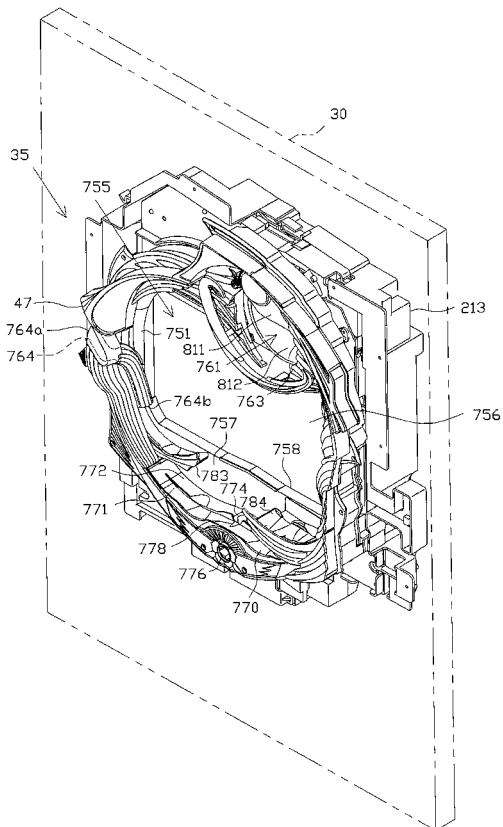
【図 5】



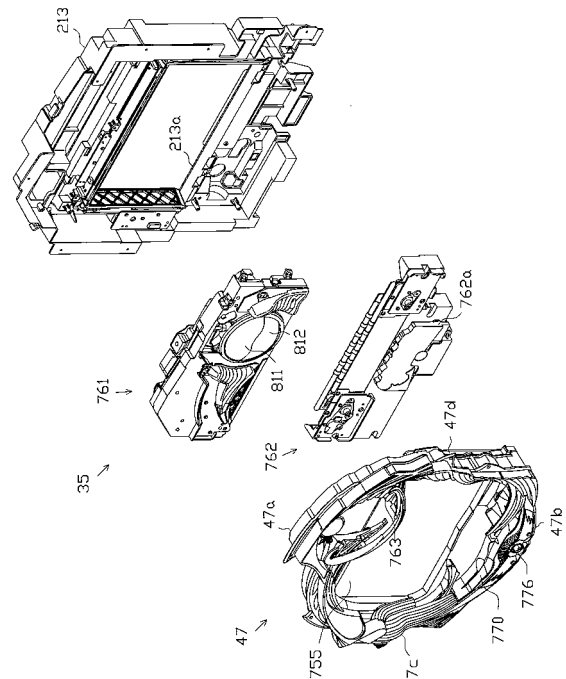
【図 6】



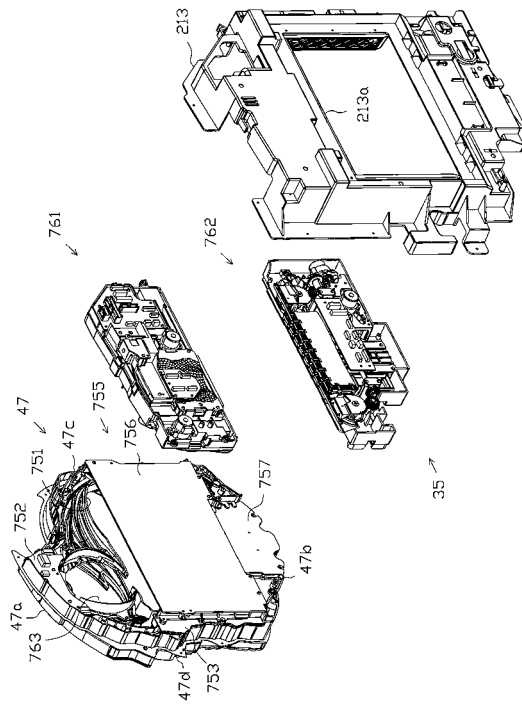
【図 7】



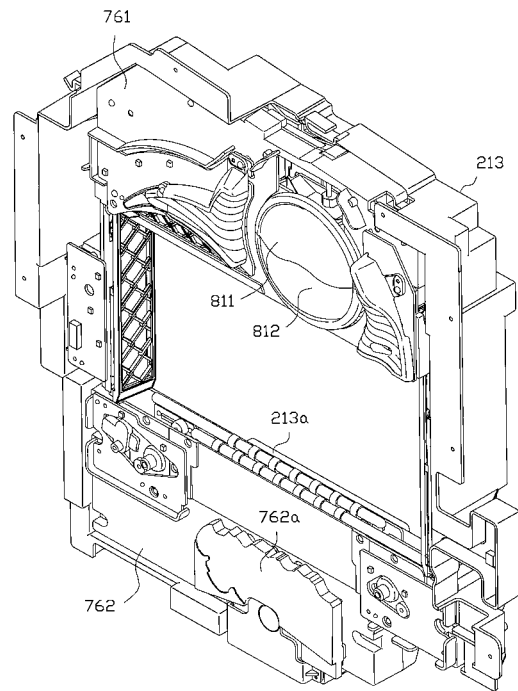
【図 8】



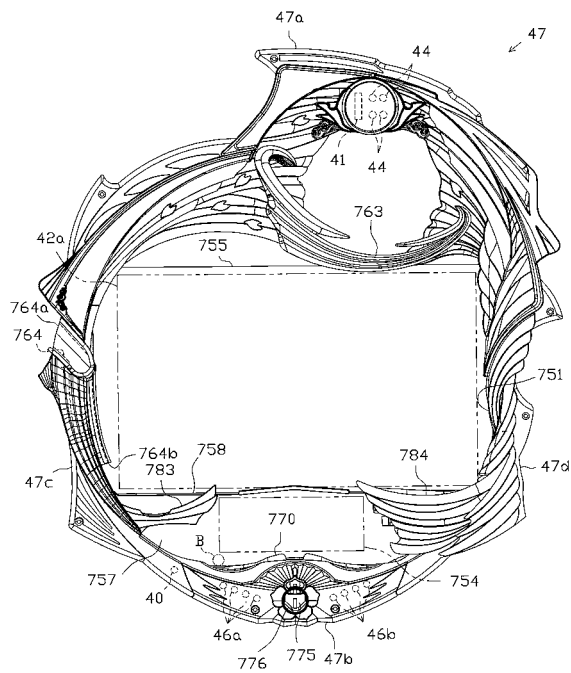
【図 9】



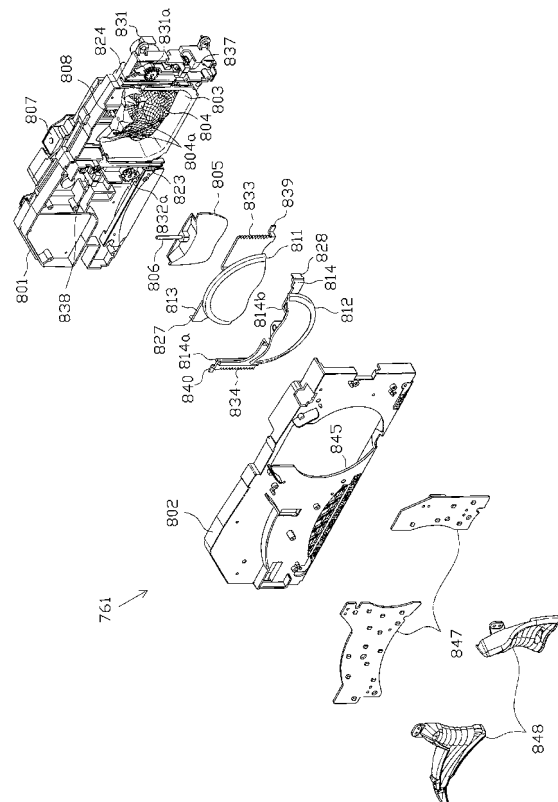
【図 10】



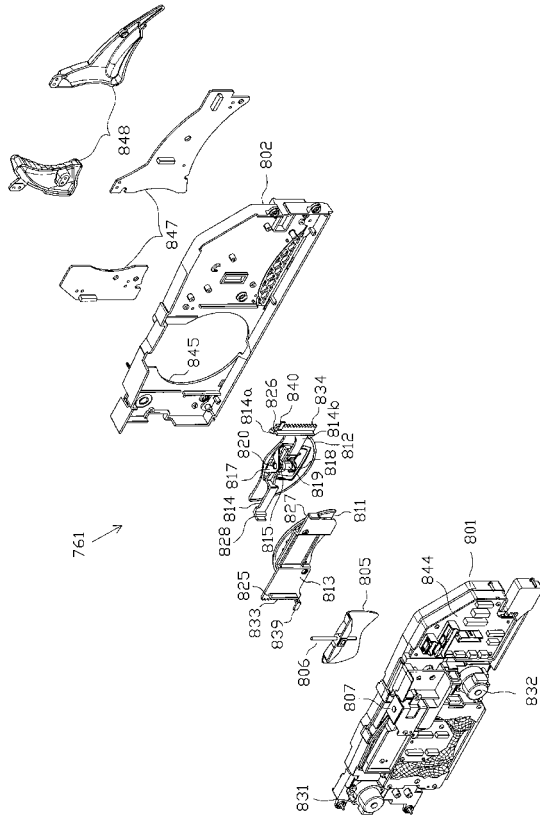
【図 11】



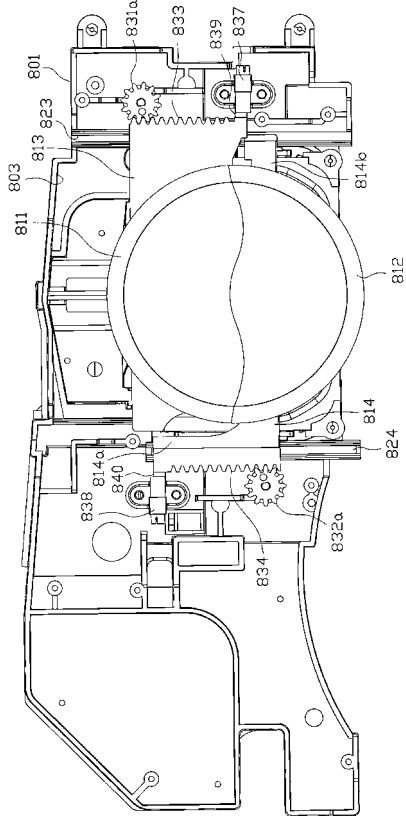
【図 12】



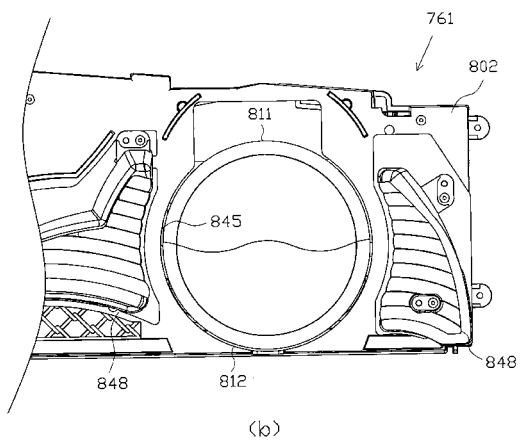
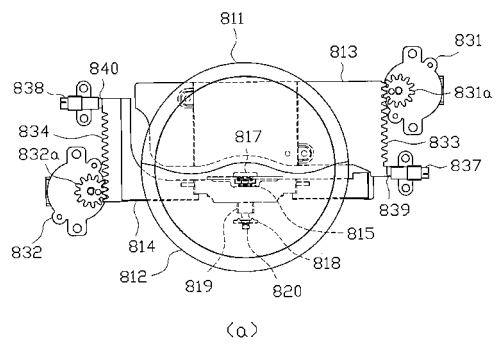
【図 13】



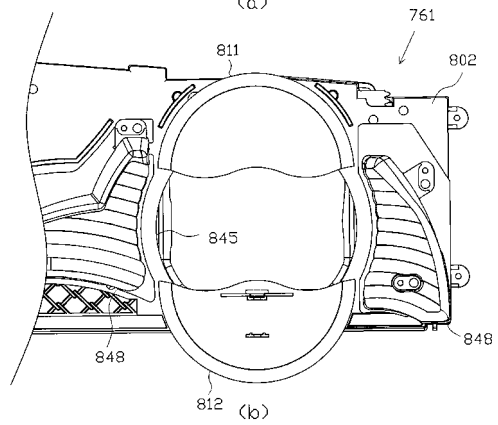
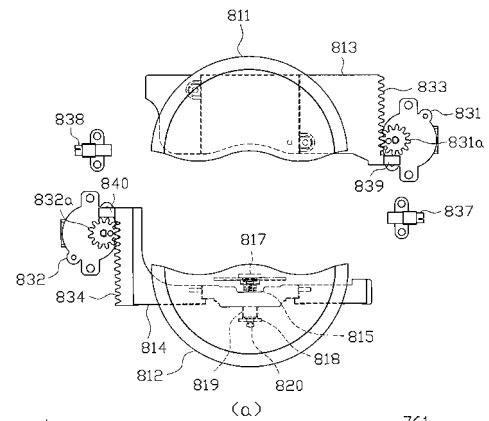
【図 14】



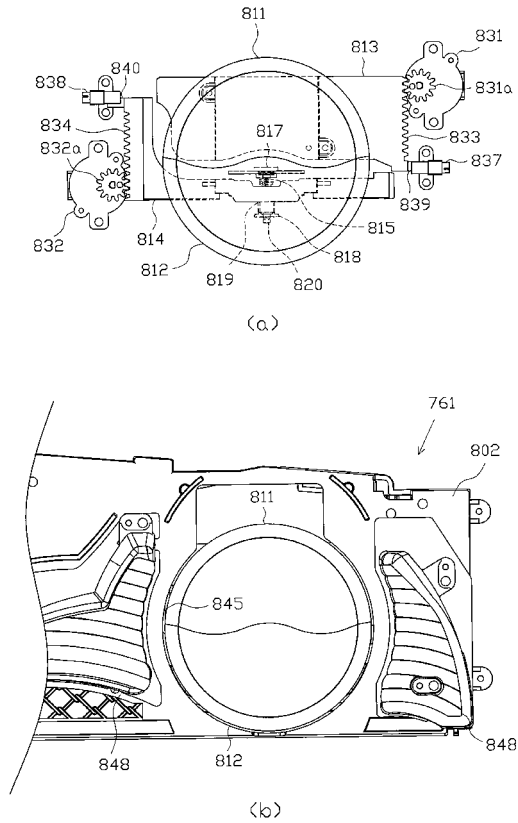
【図 15】



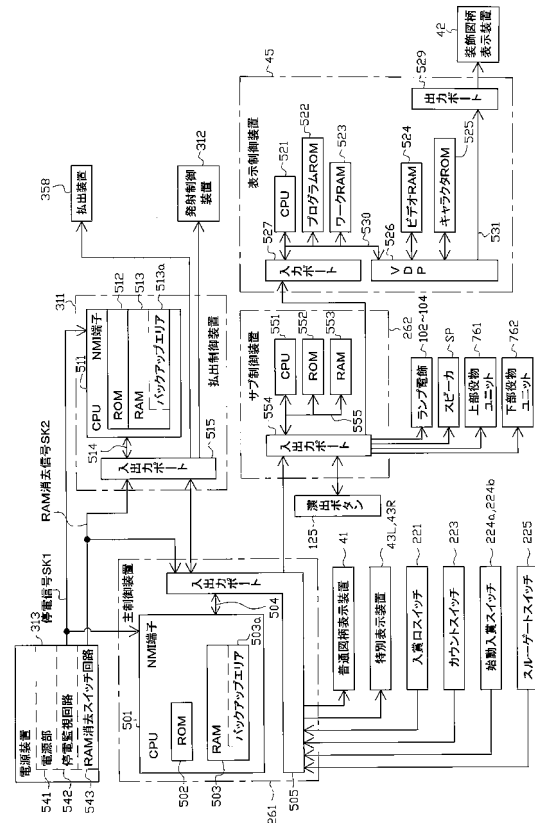
【図 16】



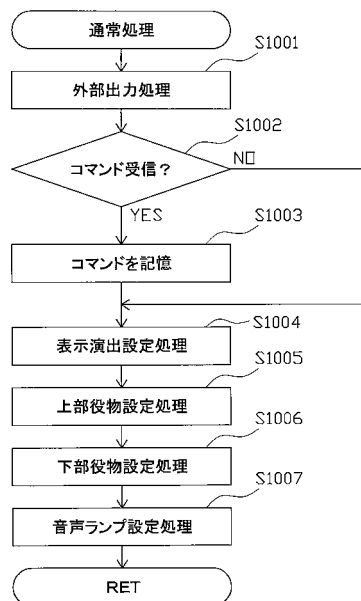
【図 17】



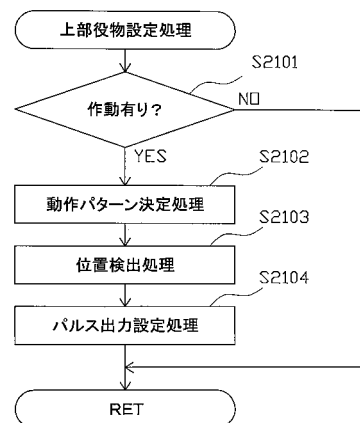
【図 18】



【図 19】



【図 20】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2005-052289(JP,A)
特開2003-041857(JP,A)
特開2008-200304(JP,A)
特開2007-098027(JP,A)
特開2008-228910(JP,A)
特開2006-192154(JP,A)
特開2007-236626(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A63F 7/02